

広島県芸北町のチョウ類

宮川 和夫¹⁾ ・ 桑原 良敏²⁾

¹⁾ 西中国山地自然史研究会 ・ ²⁾ 広島女学院大学

The Butterflies in Geihoku-cho, Hiroshima Prefecture

Kazuo MIYAGAWA¹⁾ and Yoshitoshi KUWAHARA²⁾

¹⁾ Research Group of Natural History in Nishi-Chugoku Mountains, Geihoku-cho 731-23 and
²⁾ Hiroshima Jogakuin University, Hiroshima 732

Abstract: Many people have carried out researches on "Butterflies in Geihoku-cho" and made various reports on their collections. A survey on the status of butterflies in Geihoku-cho was made from 1991 to 1993 to investigate what happened to the fauna. Out of the 100 species of butterflies recorded in past reports, 85 are recognized to be still present. In addition, 4 more species are listed for the first time.

はじめに

芸北町の蝶については、これまで、県内外の研究者や、多くの同好者、学生、生徒、児童のグループによって調査・研究が行われてきた。そして、その成果は、それぞれが所属する会や学校の「研究報告書」や「同好会誌」、あるいは「科学研究発表」などで報告されている。しかし、中には確認されてから、数十年を経過するものもあるため、現状とはチョウ相も、生息地も異なることが予想された。

そこで、今回の調査では、先ず、既報の文献資料等から芸北町関係分を抽出し、それに筆者の未発表記録を加えて、1990年時点におけるおよそのチョウ相を把握することに努めると共に、野外においても予備調査から始め、記録地や蝶の再確認に力を注いだ。

その結果、1995年9月までに得られた知見を報告する。なお、図版の説明および本文中のデータに採集者名や目撃者名を付記していないものは、すべて宮川による記録である。また、採集データの記述は初期の頃（初記録を含む）と、最近のものに限定した。種の配列は、環境庁編（1988）『第3回自然環境保全基礎調査動植物分布調査報告書』によった。

また、学名と和名は、藤岡（1975）に従った。

稿を進めるにあたり、長年御指導を賜わっている九州大学名誉教授 白水 隆博士に御礼を申しあげると共に、1964年以降採集・調査に協力していただいた地元の皆さんに対し、心から感謝申し上げる。

調査地の概要

芸北町の一部は、西中国山地国定公園内にあり、中国山地の脊梁部にあたる。集落は、標高600~800m

の高原にあり、その周辺には、西日本では少ないブナやミズナラなどの落葉広葉樹林が残る阿佐山・臥竜山など1000m級の山々が連なり、その間には大小の溪谷や湿地も見られる。芸北町は、地勢的にも、山、谷、乾・湿草原と変化に富み、しかも、植生の豊かなこと等もあって「西日本の好採集地」として、全国的に名を知られているが、近年は生息環境の激変・消滅や採集圧など、種々な原因で個体数が減少し、かつての「蝶の宝庫」といった面影が薄れてきた。そこで、これ以上減少することに歯止めをかける一つの試みとして、産地は旧村名と記号にした。但し、希少種は旧村名も省略した。

調査期間

1990年は予備調査を実施した。1991～1993年までの3年間は芸北町自然学術調査を実施した。1994～1995年は「西中国山地自然史研究会」の一員として調査を継続した。調査回数は表1に示した。

表1 年度別調査回数

年度	1991年	1992年	1993年
回数	89日	44日	34日

調査方法

1990年の予備調査の結果、チョウの発生状況が把握できたので、その状況に応じて調査時期を決定した。できるだけ町内全域くまなく調査するために、車の入れる所は車で、入れない所は徒歩で、片道約500mを一単位とし、目撃した種について記録した。その際、個体数が減少傾向にあるチョウや、希少種については採集をせず、記録と写真撮影にとどめた。

調査結果

表2は芸北町におけるチョウの昔と今とをまとめたものである。再確認種を91種、未確認種を13種、新たに芸北町で確認された種は3種であった。

現存している94種の中にも、このまま生息環境が悪化して個体数が減ると、種の維持が危ぶまれるチョウもいることがわかる。また未確認種が13種もいることがわかった。この中にはクロシジミのように、生息地が消滅したため絶滅したのではないかと思える種や、類似の環境が他の場所にもあるので、今後精査すれば生存が確認される可能性のある種もいる。注目すべきことは、個体数の減少と、南方系といわれている蝶の進出が目だつことである。

表2 芸北町におけるチョウの昔と今（35年間）

1995年9月現在

科	再確認種	未確認種	新規目撃種	計	広島県全体
セセリチョウ	14種	2種	種	16種	17種
アゲハチョウ	9			9	12
シロチョウ	6	2		8	9
シジミチョウ	30	4		34	44
テングチョウ	1			1	1
マダラチョウ	1			1	1
タテハチョウ	19	3	1	23	26
ジャノメチョウ	11	2	2	15	17
計	91	13	3	107	127

今回の調査で視認したチョウ（和名右の※印は今回新たに確認されたチョウを示す）

鱗翅目 Lepidoptera

セセリチョウ科 HesperIIDae

ミヤマセセリ *Erynnis montanus* (Bremer) 図版 I-F 標本No.セセリ—1～1・2

年1回、4月下旬～5月下旬頃、町内全域の落葉広葉樹林に現われる。木漏れ日を浴びながら、地上で翅を半開して日光浴をする個体が見られた。本町でこれまで確認した食餌植物はブナ科のコナラ、ミズナラ、クヌギなどである。幼虫で越冬する。

中野地区（'65,5,16.1♀） 八幡地区（'94,5,31.1♀）

ダイミョウセセリ *Daimio tethys daiseni* Riley 図版 I-H 標本No.セセリ—2～1

町内全域の林縁や生垣、畑地などで目撃したが、何処でもそれほど多くは見られなかった。初見日が5月下旬、終見日が9月下旬であることや、年間の幼虫の状態等から考えると、少なくとも年2回は発生していると思われる。食餌植物はヤマノイモ科のヤマノイモで、幼虫は葉を綴じて巣を造り、その中で越冬する。

中野地区（'65,7,29.1♂） 雄鹿原地区（'92,8,2.1頭）

アオバセセリ *Chaospes benjaminii japonica* (Murray) 図版 I-E 標本No.セセリ—3～1 生態図版 I-A, B

八幡地区～美和地区までの町内全域から記録されているが、個体数は少ない。食餌植物との関係があるのか、民家近くの開けた場所よりも、溪谷沿いの山道や、川端、林縁などでよくみかける。春季にはキシツツジ、夏季にはクリ、リョウブ、ノリウツギなどの花で吸蜜するものや、獣糞で吸汁するものが見られる。幼虫の食餌植物は場所によって異なり、標高の低い地ではアワブキ科のアワブキ、標高の高い地では同科のミヤマハハソである。

中野地区（'65,8,4.1♂1♀） 美和地区（'95,9,5.1頭）

ホソバセセリ *Isoeteinon lamprospilus* C.et R.Felder 図版 I-M 標本No.セセリ—6～1 生態図版 I-C

町内全域で、6～8月の高温期に、日当たりのよい草原や田の畔、路傍などで、ノアザミ、オカトラノオ、ウツボグサなどで吸蜜する個体を見た。個体数は多くない。

中野地区（'65,7,25.4頭） 雄鹿原地区（'92,7,27.2頭）

スジグロチャバネセセリ *Thymelicus leoninus* (Butler) 図版 I-G 標本No.セセリ—7～1・2

県内の産地も局地的で、中国山地の6町村と、沿岸部の広島市と福山市で記録されているだけである。こうした産地が局限された傾向は芸北町でも同様で、調査期間中に目撃したのは、中野地区と美和地区の2か所で、個体数も僅か2頭であった。

八幡地区（'61,7,28.2♂） 中野地区（'93,7,26.1♀）

ヘリグロチャバネセセリ *T. sylvaticus* (Bremer) 図版 I-D 標本No.セセリ—8～1

スジグロチャバネセセリに色彩斑紋等よく似ているが、その分布域もよく似ている。これまでのところ県内でも7市町村で記録されているにすぎない。芸北町ではスジグロチャバネセセリよりも分布は広く、町内全域に産するが、個体数は少ない。

八幡地区（'61,7,28.1♂2♀） 中野地区（'95,7,18.1♂）

コキマダラセセリ *Ochlodes venata herculea* (Butler) 図版 I-A 標本No.セセリ—9～1・2 生態図版

I-E

Thymelicus 属の2種と同じように湿った環境に生息しており、目撃した時期もほぼ同じ7月であった。3種の中では最も多く目撃した。町内においては希少種ではないが、県内分布は備北山地と西中国山地に限られており、沿岸部や低地では見られない。食餌植物はカヤツリグサ科のヒカゲスゲなどで、越冬態は幼虫。成虫は6月中旬頃から羽化し出現する。そして、湿地周辺のノアザミヤ、オカトラノオ、希にシバグリやリョウブの花でも吸蜜する。

八幡地区 ('61,7,28.1♂4♀) 中野地区 ('95,7.14.計3♂1♀)

ヒメキマダラセセリ *O. ochracea rikuchina* (Butler) 図版 I-K 標本No.セセリ—10~1・2

町内全域に広く分布しているが、コキマダラセセリと違い、同一場所で多くの個体は見られなかった。成虫は6月上旬頃から現われて、明るい草原や、林縁部のノアザミヤオカトラノオ、ウツボグサ、ミズチドリなどで吸蜜していた。

雄鹿原地区 ('61,7,28.3頭) 中野地区 ('92,6,29.計1♂1♀)

キマダラセセリ *Patanthus slavum* (Murray) 図版 I-B 標本No.セセリ—11~1

町内全域に分布するが、個体数はヒメキマダラセセリより少ない。成虫の発生時期や、訪花習性等はヒメキマダラセセリとほぼ同様である。食餌植物はイネ科のメヒシバである。

中野地区 ('65,7,25.2頭) 中野地区 ('92,7,15.計2♂)

コチャバネセセリ *Thoressa varia* Murray 図版 I-P 標本No.セセリ—12~1

町内全域に広く分布し、産地も個体数も多い普通種である。年2化で、第1化は5月中~下旬、続いて7月には第2化が羽化出現して8月下旬まで見られる。訪花性は強く、各種の草花や、クリ、リョウブの花にも集まる。また、湿った地上で吸水するものや、獣糞に7頭も群れて吸汁する光景も見られた。

中野地区 ('65,6,22.3頭) 八幡地区 ('94,6,2.7頭)

オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida* Murray 図版 I-I 標本No.セセリ—13~1 生態図版 I-D

コチャバネセセリほど多くはないが、町内全域で、やや普通に目撃した。成虫の出現期は、5月下旬~8月下旬頃で、この間2回発生し、各種の花を訪れるが、コチャバネセセリのように、獣糞に集まっているものはいなかった。食餌植物はコチャバネセセリと同じようにササ類であるが、巣の造り方や、食べ方は異なる。

雄鹿原地区 ('61,7,28.5頭) 中野地区 ('95,7,18.2頭)

チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthueri* Evans

全国的にも寒冷地では希少種と言われている。芸北町での目撃・採集記録は7~9月上旬までで、その場所も中野地区2か所と、美和地区の3か所に限られている。食餌植物や、周年経過等未解明のことが多い蝶である。

中野地区 ('65,7,28.1頭) 美和地区 ('95,9,5.1頭)

ミヤマチャバネセセリ *P. jansonis* (Butler) 図版 I-O 標本No.セセリ—15~1

県内では、沿岸部から中国山地まで分布しているが、その産地は局地的である。芸北町内でこれまで記録された場所は、雄鹿原地区の2か所と、今回発見した美和地区の1か所で、目撃・採集頭数も7頭と少ない。食餌植物はイネ科のススキである。

雄鹿原地区 ('61,7,27.1♀) 美和地区 ('91,6,1.1頭) この個体は、ムラサキツメクサで吸蜜していた。

イチモンジセセリ *Parnara guttata* (Bremer et Grey) 図版Ⅰ-J・L 標本No.セセリ—16~1・2

沿岸部や平地ではありふれた蝶であるが、芸北町においては、ホソバセセリや、チャバネセセリと同様に、目撃回数や個体数の少ないセセリである。成虫は6月下旬~10月上旬頃まで、開けた田・畑の畔や、草原などに現われ、各種の花で吸蜜する。

雄鹿原地区 ('61,7,27.2頭) 美和地区 ('95,7,18.1頭)

アゲハチョウ科 Papilionidae

ウスバシロチョウ *Pamassius glacialis* Butler 図版Ⅱ-A・B 標本No.アゲハ—1~1・2 生態図版Ⅰ-F

1960年代には広島県では珍蝶とされていたが、最近、各地で目撃されるようになった。食餌植物は、畑や休耕田に自生するケシ科のムラサキケマンであるが、この草が最近繁殖したことも分布の拡大に影響を及ぼしているのではないかと推測される。越冬態は卵で、食草の芽吹きと共にフ化した幼虫は、やがて蛹化し、5月中旬頃に羽化出現する。

中野地区 ('64,6,21.2♂1♀.沖野博之・藤沢正穂採) 美和地区 ('95,5,18.5頭) この外、八幡地区、雄鹿原地区内でも目撃している。

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* (Fruhstorfer) 図版Ⅱ-G 標本No.アゲハ—2~1 生態図版Ⅰ-G

島しょ部や沿岸部ではやや普通に見られるが、芸北町では希な蝶である。食餌植物として町外で知られているのは、クスノキ科のクスノキ、タブノキ、イヌガシであるが、これらの木は芸北町では未確認である。食餌植物がないことや、冬季の低温を考えると、気温の上昇する夏季に、低地より飛来するのではないかと推測される。

八幡地区 ('64,6,7.1♂) 中野地区 ('65,6,16.1♂) 雄鹿原地区 ('91,7,25.1♂)

キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felder 図版Ⅱ-E・F 標本No.アゲハ—3~1・2

町内全域に分布し、やや普通に見られる。幼虫は畑のニンジンやパセリの葉を食べたり、溝端や林縁のシシウド、ミツバなどの葉や花も食べる。成虫は、草原や庭などの花にも来るが、山頂に集まる習性が強い。

雄鹿原地区 ('61,7,28.1♂) 美和地区 ('95,9,5.1♀)

ナミアゲハ (アゲハ・アゲハチョウ) *P. xuthus* Linnaeus 図版Ⅱ-C・D 標本No.アゲハ—4~1・2

和名の並揚羽が表わすように、家紋にされるほど人間に親しまれている蝶である。成虫は、4月上旬頃から出現し、9月中旬頃まで、町内全域で普通に見られる。幼虫は、ミカン科のサンショウやイヌザンショウを食べるが、サンショウは民家の庭にも植えてあるため、そうした木から卵・幼虫・蛹も発見できる。越冬態は蛹で、前述のように食樹の枝や幹、あるいは家屋の壁などからも見出せる。

雄鹿原地区 ('60,10,29.サンショウから終齢幼虫3匹) 美和地区 ('95,9,5.計2♀)

オナガアゲハ *P. macilentus* Janson 図版Ⅱ-H 標本No.アゲハ—5~1 生態図版Ⅰ-H

第1化の春型成虫は、5月上旬~中旬頃に羽化出現して、川端のキシツツジの花によく集まる。続いて7月になると第2化の夏型が現われ、ユリ科の花や、クサギ、ネムノキの花で吸蜜するほか、湿った地上で他の蝶と共に吸水する光景も見られた。食餌植物は、ミカン科のサンショウ、イヌザンショウで、越冬態は蛹。

雄鹿原地区 ('61,7,28.1♂) 八幡地区 ('94,6,11.1頭)

クロアゲハ *P. protenor demetrius* Cramer 図版Ⅲ-B・D 標本No.アゲハ—6—1・2

町内全域に分布し、ナミアゲハと同じように、民家の近くから林の周辺まで、やや普通に見られた。成虫は、キアゲハや、ナミアゲハよりも少し遅れ、5月中旬～下旬頃に羽化出現するが、第2化のものは、9月中旬頃に出現するが、その殆んどが産卵樹を探す雌である。幼虫はミカン科のサンショウやイヌザンショウを食べ、蛹態で越冬する。

雄鹿原地区 ('61,7,28.2♂) 美和地区 ('94,5,20.2頭)

モンキアゲハ *P. helenus nicconicolens* Butler 図版Ⅲ-C 標本No.アゲハ—7

夏季、沿岸部では、前述のアオスジアゲハに次いでよく見かけるアゲハであるが、芸北町においては希少種に属し、その土着については不明。

中野地区 ('64,8,10.1♂. 池田庄策採) 同地区 ('65,8,7.1♂. 田中眞次採) 八幡地区 ('95,9,3.1頭. 桑原良敏目撃)

カラスアゲハ *P. bianor dehaanii* C. et R. Felder 図版Ⅲ-G・H 標本No.アゲハ—8—1・2 生態図版 I-1

町内全域に分布し、民家の庭のサンショウからも、卵や幼虫が見られた。年2回の発生で、第1化は5月中旬～下旬頃に羽化出現し、川端のキシツツジに集まる。7月になると、春型よりもひときわ大きい夏型が現われ、ノアザミや、ユリ科の花で吸蜜したり、湿った地上で吸水するものも多い。越冬態は蛹。幼虫は、ミカン科のサンショウ類の外、ミヤマシキミやキハダも食べていた。

中野地区 ('65,6,13.1♀) 美和地区・中野地区 ('95,9,5.3♀)

ミヤマカラスアゲハ *P. maackii tutanus* Fenton 図版Ⅲ-E・F 標本No.アゲハ—9—1・2

町内全域の山地や、峡谷部で見られるが、カラスアゲハより少ない。成虫はカラスアゲハと同じような周年経過を辿り、習性等はほぼ同様であるが、幼虫の餌の範囲は狭く、これまで確認したところでは、ミカン科のキハダと、希にカラスザンショウにも幼虫が見られた。このように食草の種数の多少が個体数の多少に影響していると推測される。季節による大きさの違いは前種同様顕著である。なお、成虫(特に春型)の色彩には個体変異が多く、中には北海道産かと思ましがうような個体も採集された。

八幡地区 ('61,7,28.1♂) 美和地区 ('95,7,13.1♂)

シロチョウ科 Dieridae

キチョウ *Eurema hecabe mandarina* (DE L'Orza) 図版Ⅳ-J 標本No.シロ—1—1・2・3

町内全域に普遍的な分布を示し、春から秋まで普通に見られる蝶である。近年の増加は著しい。第1化の成虫は5月上旬頃表われるが、以後連続的に発生を繰り返す、気温の高い日には、11月下旬にも飛翔を見ることがある。越冬態は成虫(越冬成虫とも呼称される)。春から秋まで、各種の花で吸蜜するが、夏季の頃には湿った地上で集団で吸水する光景も見られた。食餌植物はマメ科のメドハギ、ヤマハギ、ネムノキなど。

雄鹿原地区 ('61,7,27.5♂) 中野地区・美和地区 ('95,9,7.多数)

スジボソヤマキチョウ *Gonepteryx aspasia nipponica* Verity 図版Ⅳ-F 標本No.シロ—3—1・2 生態図版Ⅱ-A

県内の産地は局地的であるが、芸北町においては全域に分布する。但し、幼虫が食べるクロウメドモドキの自生地が限られているため、産地や個体数は少ない。越冬した雌は食樹の新芽や、その近くの小枝上に

産卵する。成虫の発生は6月下旬～7月上旬頃で、同じ木を食べるミヤマカラスジミよりも約1か月早い。

八幡地区('61,7,28.2♂) 中野地区('66,8,10.1♂・上村末子採) 中野地区('90,9,10.1♂) この外、既知産地はあるが山の中のため未調査。

モンキチョウ *Colias erate poliographus* Motschulsky 図版Ⅳ-B 標本No.シロー4～1・2 生態図版Ⅱ-B

町内全域に分布し、開けた草原や、川土手などにやや普通に見られた。近年、湿性草原が減少し、その反対に乾燥した草地は増えているが、キチョウと違い、それほど増加したとは思えない。幼虫は、マメ科のムラサキツメクサ(アカツメクサ)、シロツメクサ、ミヤコグサなどを食べ、成虫は4月下旬～9月下旬頃まで見られる。

美和地区('62,5,13.1♂) 中野地区('95,9,5.1♂1♀)

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* Butler 図版Ⅳ-E 標本No.シロー5～1・2

町内全域に分布し、春季に限り、谷沿いの林道上を飛ぶものや、山際のアブラナ畑で、ウスバシロチョウなどと吸蜜する個体が見られる。成虫は、4月下旬～5月下旬頃まで出現するが、地域や、年によっては6月上旬頃まで目撃できる。幼虫はアブラナ科のタネツケバナを食べる。越冬態は蛹。

中野地区('66,5,9.2♂1♀) 八幡地区('95,5,13.1♂)

モンシロチョウ *Pieris rapae crucivora* Boisduval 図版Ⅳ-A 標本No.シロー1～1

町内全域に広く分布し、人里においても、しばしば卵・幼虫・成虫が見られた。成虫は多化性で、4月上旬～9月下旬頃までの間、何回も発生しているが回数については未確認である。また、越冬態は蛹で、その前の幼虫は、11月中旬にも見られた。食餌植物は、アブラナ科のキャベツ、ダイコン、ハクサイ、ミズナ、アブラナといった栽培種から、野生のイヌガラシまで多様。

中野地区('65,4,24.1♂) 美和地区('95,9,5.5頭)

スジグロシロチョウ *P. melete* Ménétrières 図版Ⅳ-C 標本No.シロー7～1・2

モンシロチョウと同じように、町内全域に分布しどこでも普通に見られた。モンシロチョウが明るく開けた場所に多いのに反し、本種の方がやや陰性で、曇天の日や、晴天の夕方、あるいは薄暗い林の中でも見られた。成虫は多化性で、春から秋まで繰り返し発生するが、第1化の出現期はモンシロチョウより若干早く、3月下旬頃には羽化出現する。食餌植物はアブラナ科で、野生の植物だけでなく栽培種にも産卵し、それを食害する。

中野地区('64,3,29.1♂) 美和地区('95,9,5.計7頭)

シジミチョウ科 Lycaenidae

ムラサキシジミ *Narathura japonica* (Murray) 図版Ⅴ-A 標本No.シジミー1～1・2

1960年代には希なチョウであったが、今回の調査では、中野地区で2か所、八幡地区で1か所と、計3回目撃し、多くはないが、必ずしも希ではないことが判明した。食餌植物は、これまでに中野地区でクヌギを確認していたが、今回八幡地区の1か所ではカシワにも産卵していたので、これも餌になっているのだろう。(他地域では確認済)

中野地区('65,7,21.1頭) 八幡地区('90,7,5.1♀と2卵) 中野地区('91,7,13.1♂) 中野地区('92,7,15.1♀) 中野地区('94,7,8.1頭)

ウラキシジミ *Ussuriana stygiana* (Butler) 図版V-B 標本No.シジミ—2~1・2

これまで記録のある産地は、八幡地区、雄鹿原地区、美和地区の3地区で、中野地区の記録はない。しかし、中野地区のAやEには食樹もある程度まとまって自生している場所もあるので、時期さえ合えば目撃される可能性も大きい。食餌植物はコバノトネリコ。

八幡地区 ('70.1♂.渡部泰明採)

八幡地区 ('71.1♀.桑原良敏採)

八幡地区 ('80.1頭) 雄鹿原地区 I ('91.1♂) 美和地区 ('93,5,11.幼虫2匹) 以上が全記録で、本町では希少種と考えられる。

アカシジミ *Japonica lutea* (Hewitson) 図版V-C 標本No.シジミ—3~1・2

町内全域に分布し、年1回、7月頃の夕刻ブナ科の木の梢上を黄昏飛翔をするが、ウラナミアカシジミのように、同一場所に群生はしていない。越冬態は卵であるが、春になってフ化した幼虫は、ブナ科のコナラ、ミズナラ、クヌギ、アベマキ、カシワなどの葉を食べて成長する。本種については最近、広島県佐伯郡吉和村冠高原産のものを「ミナミアカシジミ」とする説があるが、本町産のものについては資料が少なく、充分検討できなかったため本報では従来 of 学名と和名を用いた。

雄鹿原地区 ('61,8,5.1頭) 中野地区 ('92,7,27.1頭)

ウラナミアカシジミ *J. saepestrata* (Hewitson) 図版V-D 標本No.シジミ—4~1・2 生態図版II-F

アカシジミに比べると産地は局限されるが、その代わり、一地点で群生していることが多い。1960年代には町内各地にクヌギ林も多く、それらの林では7月上旬~下旬頃、円巴と黄昏飛翔する集団が見られたが、今回の調査で、クヌギ林とウラナミアカシジミの減少を痛感した。越冬態は卵。幼虫はブナ科のクヌギ、アベマキを食べる。

雄鹿原地区 ('61,7,27.多数) 美和地区 ('92,7,6.2♂) 中野地区 ('95,7,13.1頭)

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* (Bremer) 図版V-E 標本No.シジミ—5~1・2 生態図版II-E

町内全域に分布するが、個体数はそれほど多くない。ブナ科のミズナラ、コナラ、クヌギ、アベマキ、カシワなどの小枝上に産み付けられた卵は翌春フ化し、成虫は7月頃落葉広葉樹林に現われる。(年1化)

八幡地区 ('61,7,28.2♂1♀) 雄鹿原地区 ('93,7,20.1頭)

ダイセンシジミ (ウラミスジシジミ) *Wagimo signata* (Butler) 図版V-G 標本No.シジミ—7~1・2

県内の既知産地も5市町村と局限されている希少なチョウであるが、芸北町でも八幡地区と中野地区でしか採集されていない。食餌植物は、他のアカシジミやミズイロオナガシジミと同様、ブナ科のミズナラ、コナラ、カシワなどである。

中野地区 ('64,7,20.1♀, 四郎田宗則採) 同地区 ('65,7,24.1♂) 同地区 ('66,7,22.1♀) 八幡地区 ('92,7,14.1♂)

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice orsedice* (Butler) 図版V-H 標本No.シジミ—8~1・2

西日本においては産地が局限されるチョウであるが、芸北町には溪谷が多く、そうした岸辺やダムの湖岸等には幼虫の餌になるマンサク(タニイソギ)の木が多いため、1960年代にはウラクロシジミも毎年のように確認された。しかし、その産地も激変し、現在では容易に目撃できない('92年の卵は偶然伐採現場を通りがかって発見)。越冬態は卵で、成虫は年1回、6月下旬~7月上旬頃に現われ、流れの上を黄昏飛翔をする。

中野地区 ('65,7,7.1♂) 美和地区 ('92,10,2.7卵)

ミドリシジミ *Neozephyrus taxila japonicus* (Murray) 図版V-J 標本No.シジミー9~2・3・4・5と、
図版VI-F 標本No.シジミー9~1・2 生態図版II-C

ミドリシジミ類の中ではやや普通、県内にも、山地から沿岸部まで産地が多く知られている。芸北町内には各地に湿地があるため、そこには幼虫の餌となるハンノキ（バンノキ）が多くあり、町内に産するミドリシジミと名のつくチョウの中では最も個体数が多い。食餌植物は、湿地ではハンノキ、山腹などのやや乾いた場所ではヤマハンノキ。越冬態は卵。成虫は年1回、7月上旬~下旬頃まで見られる。生き残りの雌は8月中旬頃でも見ることがある。

雄鹿原地区（'61,7,27.6♀） 美和地区（'92,10,3.3卵）

メスアカミドリシジミ *Chrysozephyrus smaragdinus* (Bremer) 図版V-L 標本No.シジミー10~1・2
生態図版II-G

西日本では山地性の希少種と言われているが、芸北町内にはほぼ全域に分布し、各地で目撃・採集されている。年1回の発生で、成虫は6月下旬~7月上旬頃羽化出現し、7月下旬まで見られる。雌赤という名のように、雌の前翅には赤紋があるが、本町産の雌の中にも稀に赤紋の消失した個体も見られる。食餌植物はバラ科のヤマザクラ。越冬態は卵。

中野地区（'65,8,12.1♀.谷口武文採） 美和地区（'92,11,3.2卵） 八幡地区（'95,7,9.2♂） '92年の2卵は路傍の草刈りで伐られた食樹から発見された。

アイノミドリシジミ *C. brilliantinus* Staudinger 図版V-I 標本No.シジミー11~1・2

同属のメスアカミドリシジミよりも産地が少ない。県内での既知産地も中央中国山地と西中国山地に限られており、山地性ゼフィルスの代表種である。1960年代には町内全地区に産したが、このチョウの生息するミズナラ林が減少したため産地も個体数も減少した。幼虫はブナ科のミズナラやコナラを食べ、年1回、7月中旬頃に羽化出現する。町内産の雌は殆んどが鮮明なAB型であるが、希にB型も出現する。

中野地区（'65,10,23.7卵） 八幡地区（'92,3,14.2卵） 風倒木より採集。

ヒサマツミドリシジミ *C. hisamatsusanus* (Nagami et Ishiga) 図版VI-A 標本No.シジミー12~1・2
生態図版II-H

中国山地から広島市北部までの峡谷部に、局地的な産地はある。その林相は、常緑性のブナ科のウラジロガシか、シラカシである。芸北町にもブナ科の林はあるが、その多くは落葉性である。そうしたこともあって芸北町でヒサマツミドリシジミを採集しようとする研究者はいなかったが1976年、匹見町在住の中村泰士氏によってブナ林に生息していた1雄が採集された。食餌植物はブナ科のブナで、これまでのところイヌブナからは採卵されていない。越冬態は卵で年1回発生。今回はブナの風倒木から採卵（'92,3,14.1卵芸北町域）。

フジミドリシジミ *Quercusia fujisana fujisana* (Matsumura) 図版VI-B 標本No.シジミー13~1・2 生態図版II-K

ブナ林の妖精もかくやと思わせるようなチョウであるが、西日本にはブナ林が少ないために、山地性の希少種とされている。芸北町内にはブナ林（高標高）も、イヌブナ林（低標高）もあり、どちらの木でも卵や幼虫が発見できる。町内産のゼフィルス類の中では羽化も早く、年1回、6月中旬~下旬頃に現われて、夕刻、ブナ林の梢上を黄昏飛翔する。越冬態は卵。

中野地区（'65,11,2.1卵.沖野完二採） 八幡地区（'90,7,15.1♀）

オオミドリシジミ *Favonius Orientalis* (Murray) 図版Ⅵ-C 標本No.シジミ—14~1・2 生態図版Ⅱ-J

芸北町産の *Favonius* 属 4 種の中では産地が多いが、個体数は多くない。食餌植物は、ブナ科のコナラ、ミズナラ、カシワで、年 1 回、6 月中旬~7 月上旬頃にかけて羽化出現する。越冬態は卵。

雄鹿原地区 ('61,7,28.1♂1♀) 中野地区 ('92,7,13.1♂)

エゾミドリシジミ *F. jezoensis* (Matsumura) 図版Ⅵ-E 標本No.シジミ—15~1・2

芸北町産の同属中では最も産地が局限されており記録も少ない。食餌植物として町外では、クヌギ、コナラ、カシワなどが挙げられているが、芸北町内での卵はすべてミズナラから発見している。

中野地区 ('65,11,28.9卵) 雄鹿原地区 ('91,10,13.4卵) このミズナラは台風で倒れていたため調査が簡単にできた。

ハヤシミドリシジミ *F. ultramarinus* (Fixsen) 図版Ⅴ-K 標本No.シジミ—16~1・2

'60年代にはカシワの林も多くあり、1か所で何頭もの本種が乱舞する光景も見られたが、今回確認した産地は2か所で、目撃個体も1匹と1雌であった。成虫の出現は7月中旬頃であるが、生き残りの雌を8月下旬に目撃したこともある。年1回の発生で、越冬態は卵。

雄鹿原地区 ('61,7,27.多数) 雄鹿原地区・八幡地区 ('61,7,28.多数) 雄鹿原地区 ('92,5,19.幼虫1匹) 中野地区 ('93,7,26.1♀)

ジョウザンミドリシジミ *F. aurorinus* Oberthur 図版Ⅵ-D 標本No.シジミ—17~1・2

山地性のゼフィルスで、中央中国山地と西中国山地に局地的に分布する。芸北町においては八幡地区~美和地区まで産地はある。それらはミズナラ林に限られている。産卵は、幼虫の餌になるミズナラにされるが、ミズナラ林の中か、近くにコナラがある場合、コナラからも卵が発見できる。成虫は7月上旬頃羽化出現する(年1回)。越冬態は卵。

中野地区 ('65,7,25.1♀) 八幡地区 ('91,11,17.9卵) 台風で倒れたミズナラより採集。

トラフシジミ *Rapala arata* (Bremer) 図版Ⅵ-G・H 標本No.シジミ—18~1・2

町内全域に広く分布しているが個体数は少ない。幼虫は、ユキノシタ科のウツギや、ツツジ科のアセビ、ナツハゼなどの花から発見できた。第1化の春型は4月下旬頃。第2化の夏型は7月上旬頃に出現する。

中野地区 ('64,4,29.1♂) 雄鹿原地区 ('92,6,3.1頭) この個体は春型であった。

ミヤマカラスシジミ *Strymonidia mera* (Janson) 図版Ⅵ-J 標本No.シジミ—20~1・2

県内分布と同様、町内の産地も局地的である。これまでに、八幡地区 ('71年,2♂2♀. 桑原克夫採・4♀. 桑原良敏採) と、中野地区、美和地区で採集されている。今回の調査でも、それらの産地を訪れたいと思ったが、山道が消えて行けない場所や(中野地区)、山の様相がすっかり変わった場所(美和地区)もあり、確認できたのは1か所であった。そこには、食餌植物のクロウメモドキも、チョウもいた。越冬態は卵。

中野地区 ('65,11,10.5卵) 八幡地区 ('94,8,12.1頭)

コツバメ *Ahlbergia ferrea* (Butler) 図版Ⅵ-K 標本No.シジミ—21~1

町内全域に分布し、春季1回、ミヤマセセリと共に、各地の林縁や林道傍で見られた。幼虫は、ツツジ科のスノキ(カンス)や、アセビの花や蕾を食べる。越冬態は蛹。

中野地区 ('65,4,28.1♂) 雄鹿原地区 ('92,6,29.幼虫1匹) この幼虫はナツハゼの花にいた。

ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* (Seitz) 図版Ⅶ-A 標本No.シジミ—23~1・2

町内全域に広く分布し、各地で確認された。幼虫は、タデ科のスイバ、ヒメスイバ、ギシギシなどを食べる。成虫は、4月下旬頃~10月下旬頃まで、開けた草原や、田・畑の畔、路傍などでよく見かける。季

節によって翅表の色彩が異なる。

八幡地区 ('61,7,28.2頭) 美和地区 ('94,4,28.計3頭)

ゴイシジミ *Taraka hamada* (Druce) 図版Ⅶ-B 標本No.シジミ—24~1・2 生態図版Ⅱ-L

町内全域に分布し、各地の山地や林にやや普通で、その産地からあまり離れない。幼虫はササ類の葉裏に寄生しているアブラムシの1種を食べる。

雄鹿原地区 ('61,7,28.1♀) 美和地区 ('94,6,11.2頭)

ウラナシジミ *Lampides doeticus* (Linnaeus) 図版Ⅶ-D 標本No.シジミ—26~1・2

夏季から秋季にかけて、中野地区の畑で目撃したが個体数は少ない。しかし、珍希種ではないので、今後精査すれば、他地区でも発見されるであろう。幼虫は、マメ科のアズキの幼果を食べていた。越冬の可否や、土着種か否かは不明。

中野地区 ('66,8,14.1♀) 中野地区 ('95,9,5.1♂)

ヤマトシジミ※ *Zizeeria maha argia* (Ménétrières) 図版Ⅶ-E 標本No.シジミ—27~1・2

芸北町では未確認種であったが、1995年に美和地区Eで、1雄1雌を確認した。付近には食餌植物のカタバミも自生していたので、その付近で羽化したものと考えられる。

美和地区 ('95,9,5.1♂1♀)

ゴマシジミ *Maculinea teleius kazamoto* (Druce) 図版Ⅶ-F 標本No.シジミ—28~1・2

日本版レッドデータブックでは希少種とされている。全国的に減少傾向であり、その将来が危惧されている。芸北町の草原には、若齢幼虫が食べるワレモコウが多く、盛夏に草原を飛び廻る光景がよく観察された。今回の調査では多くの個体が発見できなかった。

雄鹿原地区 ('61,7,27.多数) 美和地区 ('95,9,5.1♀) この雌はワレモコウの花穂に産卵していた。

ルリシジミ *Celastrina argiolus ladonides* (DE L'Orza) 図版Ⅶ-G 標本No.シジミ—29~1・2 生態図版Ⅱ-M

町内全域に分布し、春~秋まで各地でやや普通に見られる。幼虫は、マメ科のフジ、クズ、クララ、ハギ類の花や幼果を食べるが、1995年7月12日に美和地区Gで、タデ科のイタドリの蕾に産卵していたのを観察した。6月以後は湿った地上で吸水する個体が多い。越冬態は蛹。

雄鹿原地区 ('61,7,27.1♂2♀) 美和地区 ('95,9,5.2♂)

スギタニルリシジミ *C. sugitanii sugitani* (Matsumura) 図版Ⅶ-H 標本No.シジミ—30~1・2

三段峡は古くから多産地として全国的にも知られていたが、桑原(1973)は、1972年に八幡地区で、翌年には雄鹿原地区で採集している。その後は暫らく新産地の報告はなかったが、1984年に美和地区で上手新一氏によって発見されている。今回の調査では、八幡地区のみで発見された。

八幡地区 ('94,5,8.3♂)

サツマシジミ *C. albocaerulea sauteri* (Fruhstorfer) 図版Ⅶ-I 標本No.シジミ—31~1・2

南方系の本種が、寒冷な美和地区Gで発見されて話題になった('72年.2♂.渡部泰明採)が、その後は次のように目撃している。

八幡地区 ('80,8,2.1♂)

中野地区 ('91,6,29.1♂)

中野地区 ('94,7,13.1頭)

小型の蝶で、それほど飛しょう力があるとは考えにくい。本町に土着したのか否かは不明。食餌植物や

周年経過等は不明.

ツバメシジミ *Everes argiades hellotia* (Ménétrières) 図版Ⅶ-J 標本No.シジミ—32~1・2

町内全域に広く分布し、草地、畑地、林道傍など、明るく開けた場所でやや普通に見かける。食餌植物は、マメ科のコマツナギで、成虫は、4月下旬頃から10月上旬頃まで見られた。

中野地区 ('66,8,12.1♂) 美和地区 ('95,9,5.計3頭)

ヒメシジミ *Plebejus argus micrargus* (Butler) 図版Ⅶ-K 標本No.シジミ—33~1・2

県内には産しない地域もあるが、芸北町内には産地も多く、多産する。幼虫は、湿地に自生するキセルアザミを食べるが、その葉上にはアリの一種も共生しており、それを目安に発見できる。成虫は、年1回、6~7月頃に現われ、湿地やその周辺の花に、コキマダラセセリや、ヒョウモンモドキと共に訪れて吸蜜していた。

八幡地区 ('60,7,27.多数) 美和地区・中野地区 ('95,7,13.多数)

ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* DE Niceville 図版Ⅶ-L 標本No.シジミ—34~1・2

県的には決して珍しい蝶ではないが、芸北町では希少種と考えられ、調査期間中に目撃した個体は1例だけであった。南方系のサツマシジミの増加例から考えると、今後増えることが予想される。

幼虫は、マメ科のクズの花を食べるが、この植物は町内の林縁にも繁茂している。

中野地区 ('65,7,11.1♀) 美和地区 ('93,8,27.1♂)

テングチョウ科 Libytheidae

テングチョウ *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer 図版Ⅳ-I 標本No.テング—1~1

町内全域に分布するが、その産地は中野・美和地区に局限される。幼虫は、ニレ科のエノキや、エゾエノキを食べると言われているが、美和地区以外にも食樹が自生しているかどうかは不明。ただ、他の地域でも本種を目撃している。

成虫は年1回、6月頃に羽化するが、その個体数は年によって変動する。6・7月に見かけるものは、崖や、湿った路上などで吸水しているが、越冬後の成虫は、スモモや、サクラなどを訪れて吸蜜する個体も観察された。

中野地区 ('64,5,31.2♂) }
 " ('64,6,15.1♂) } 計6頭
 " ('64,6,16.2♂) }
 " ('64,7,6.1♂) }

中野地区 ('65,6,16.12♂) }
 " ('65,6,22.36♂) } 計48頭

美和地区 ('91,6,8.3頭)

マダラチョウ科 Danaidae

アサギマダラ *Parantica sita nipponica* (Moore) 図版Ⅳ-G 標本No.マダラ—1~1 生態図版Ⅲ-A

沿岸部や平地では希にしか見られないが、芸北町では調査地全域で目撃した。今回の調査と、過去の調

査では、7月に多く目撃されている。1994年には1例ほど5月に上奥原で目撃した。この個体は川床で吸水らしい行動をしていた。盛夏には山頂のヒヨドリバナで吸蜜する個体や、林の中で木の枝に下垂して夏眠するものが観察された。9月になると人里近くへ降りてきて、ソバの花で吸蜜する個体を観察した。

八幡地区 ('60,7,27.4♂2♀) ヒヨドリバナで吸蜜していた

八幡地区 ('90,7,7.1頭) イタヤカエデの小枝に下垂して夏眠していた

美和地区 ('90,7,22.1♂)

雄鹿原地区 ('90,9,11.1♂1♀) タムラソウの花で吸蜜していた

〃 ('91,7,25.2♂) ヒヨドリバナで吸蜜していた

中野地区 ('92,7,31.3♂2♀) ヒヨドリバナで吸蜜していた

'94年5月23日の1雌と、'90年9月11日の1雄1雌以外はすべて7月に目撃されていること。本種はワタリをすることが報告されていることから、モンキアゲハと同じように冬は暖地で過ごし、気温の上昇とともに芸北の地へ飛来するとも推測される。

タテハチョウ科 Nymphalidae

ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice japonica* (Ménétrières) 標本No.タテハ—1~1

町内全域に分布し、各地にやや普通に産する。幼虫は、スミレ類を食べると言われているが詳細は不明。成虫は、年1回、6月中旬頃から明るい草原に現われ、ノアザミやオカトラノオ、ヒヨドリバナ、クリなどの花で吸蜜する。また、秋になるとソバ畑でもよく見かけた。

八幡地区 ('60,7,27.1♀) 中野地区 ('95,9,5.1♂)

オオウラギンスジヒョウモン *A. ruzsana lysippe* (Janson) 図版Ⅷ-A・B 標本No.タテハ—2~1・2
生態図版Ⅲ-B

町内全域に分布し、各地にやや普通に産する。幼虫の食餌植物は不明。成虫は、年1回出現するが、ウラギンスジヒョウモンよりも少しおくれて出現する。

中野地区 ('65,7,9.1♂3♀) 中野地区 ('95,7,18.1♂1♀)

ミドリヒョウモン *Argynnis paphia tsushimana* Fruhstorfer 図版Ⅷ-C・D 標本No.タテハ—3~1・2・3

町内全域に分布し、やや普通に産する。本種の雌には黒化型のものがあるが、その出現率は芸北町では八幡地区が最も高い。幼虫は、スミレ科のオオタチツボスミレを食べ、前記2種とはほぼ期を同じくして発生し、各種の花で吸蜜する。

中野地区 ('64,6,20.4♂) 中野地区 ('95,9,5.計2頭)

クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene midas* (Butler) 図版Ⅷ-E 標本No.タテハ—4~1・2

町内全域に分布するが、その産地や個体数は、ウラギンスジヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ミドリヒョウモンに比べると少ない。成虫は、6月中旬頃から現われ、山地林縁のクリやウツギに集まる。8月中旬を過ぎると、人里に出てソバの花や、草原のオミナエシで吸蜜する。

美和地区 ('66,6,26.3♂1♀) 中野地区 ('95,9,5.1頭)

メスグロヒョウモン *Damora sagana liane* (Fruhstorfer) 図版Ⅷ-F 標本No.タテハ—5~1・2

1960年代には、町内に生息するヒョウモン類の中では、ツマグロヒョウモンに次いで少ない種であった。その傾向は今回の調査でも顕著で、この5年間に目撃したのは1例のみであった。

中野地区 ('65,8,7.1♀ .岡田良雄採) 美和地区 ('91,9,20.1♂) この個体は、路傍のキセルアザミで吸蜜していた。

ウラギンヒョウモン *Fabriciana adippe pallescens* (Butler) 図版Ⅷ-G 標本No.タテハ—6~1・2 生態図版Ⅲ-C

町内全域に広く分布し、草原の草花や、クリなどの花に集まるヒョウモン類の中では、個体数は最も多い。成虫は、前記4種のヒョウモン類より早く、6月上旬頃に羽化出現する。そして、盛夏には一時的に草原から個体数が少なくなるが、また8月中旬を過ぎると姿を見せ始め、9月下旬頃までソバ畑などで見られる。

八幡地区 ('60,7,27.2♀) 中野地区 ('95,7,18.1♀)

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* (Linnaeus) 図版Ⅷ-H 標本No.タテハ—7~1・2 生態図版Ⅲ-H

最近町内全域で目撃回数が増加した種である。1960年代には、ヒョウモン類の中では希少な種であったが、今回の調査期間中にも、役場の駐車場で成虫を、民家周辺のパンジーのプランターからは幼虫も確認された。食餌植物は、スミレ科のスミレ、パンジーである。

中野地区 ('64,6,23.1♂) 中野地区 ('92,7,6.2♂)

イチモンジチョウ *Ladoga camilla japonica* (Ménétrières) 図版Ⅸ-A 標本No.タテハ—8~1

町内全域に分布するが、その生息環境は林縁や生垣などである。幼虫は、スイカズラ科のスイカズラを食べ、年2回、5月中旬頃と、7月上旬頃に現われる。ウツギやノリウツギなどで吸蜜するが、第2化のものは湿った地上で吸水するものも多い。

中野地区 ('64,5,31.1♂) 中野地区 ('92,7,13.1頭)

アサマイチモンジ *L. glorifica* (Fruhstorfer) 図版Ⅸ-B 標本No.タテハ—9~1

町内全域に分布するが、その産地は前種より少ない。食餌植物はスイカズラである。また、発生回数や時期もイチモンジチョウとほぼ同じで、色彩斑紋等も酷似している。一般的には前種よりも個体数は少ないが、本種の方が優勢な地域もある。

八幡地区 ('64,6,7.1♀) 八幡地区・雄鹿原地区 ('91,6,18.計1♂2♀)

コムスジ *Neptis sappho intermedia* W. B. Pryer 図版Ⅸ-C 標本No.タテハ—10~1

町内全域に広く分布し、山地・人里を問わずやや普通に見られるが、群生しない。成虫は、5月下旬~9月上旬頃まで現われ、ウツギやクリなどで吸蜜する。夏季には湿った地上で吸水する個体もいる。

中野地区 ('65,6,16.2♂) 美和地区 ('95,8,13.計3頭)

ミスジチョウ *N. philyra excellens* Butler

芸北町における既知産地は、八幡地区と中野地区であるが、今回の調査では中野地区では確認できなかった。美和地区で1雌を確認した。県内では、宮島町のような多産地もあるが、全県的には希少種である。食餌植物はカエデ科のハウチワカエデ。

中野地区 ('65,6,22.1♂ .菅川靖之採) 美和地区 ('94,7,13.1♀)

ヒョウモンモドキ *Melitaea scotosia* Butler 図版Ⅸ-D 標本No.タテハ—12~1・2 生態図版Ⅲ-D・E・F, IV-I

芸北町の地勢や気候は本種の生息環境(湿地帯)に適しているため、産地や個体数とも多く、全国的にも有名であった。しかし、生息環境の消滅や採集圧が高まり、芸北町産チョウ類の中で絶滅が危惧される

1種である。また、次の記録は1966年から、最盛期に同地点で目撃した1日の頭数の推移である。

1966年：57頭，1974年：40頭，1991年：13頭，1995年：5頭，幼虫は、湿地に自生するキセルアザミ（希にタムラソウ、ノアザミ）を食べ、年1回、6月下旬頃から羽化出現し、7月下旬まで、湿原内のハンカイソウやノハナショウブ、周辺部のノアザミ、オカトラノオ、ヒヨドリバナなどで吸蜜する。また、湿った地上に降りて吸水する個体も見られた。越冬態は幼虫。日本版レッドデータブックでは危急種に選定されている。

雄鹿原地区（'62,7,14.7頭） 芸北町域（'95,7,22.5頭）

サカハチチョウ *Araschnia burejana strigosa* Butler 図版IX-E 標本No.タテハ—13～1・2 生態図版III-G

町内全域に分布するが、その産地や個体数は多くない。生息地は林縁や、川端などが多く、開けた草原状の場所では目撃していない。幼虫は、イラクサ科のコアカソや、アカソを食べるが、その葉を綴じ合わせて巣を造る。また、春型と夏型とでは色彩・斑紋が異なり別種かと思紛うほどである。越冬態は蛹。

中野地区（'65,6,24.1頭） 雄鹿原地区（'94,8,12.1頭）

ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas japonica* (Stichel) 図版IX-H 標本No.タテハ—16～1

町内全域に分布するが、その産地は限られており、個体数も多くない。成虫は、6月上旬頃から羽化出現するが、梅雨明けの頃から8月中旬頃までは目撃個体数も減少する。そして、盆過ぎの秋風と共に再び姿を見かける。幼虫は、庭に植栽されているウンリュウヤナギや、シダレヤナギ、ポプラなどを食べる。また、成虫は、樹液を吸汁したり、湿った地上で吸水する。越冬態は成虫。

中野地区（'64,6,16.2頭） 八幡地区（'95,7,9.1頭）

ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* (Linnaeus) 図版X-A 標本No.タテハ—17～1

町内全域に広く分布するが、アカタテハより個体数は少ない。幼虫は、キク科のヨモギやハハコグサなどの葉を綴じて巣を作る。食餌植物は上記の外、畑のゴボウの葉も食べる。成虫の出現期は6月上旬頃、終見日の最も遅い記録は1965年11月13日.1♂.中野地区。

中野地区（'65,6,7.1頭） 中野地区（'93,7,20.1頭）

アカタテハ *Vanessa indica* (Herbst) 図版X-E 標本No.タテハ—18～1 生態図版III-J・K

町内全域に広く分布し、各地で普通に見られる。食餌植物は、イラクサ科のカラムシ、ミヤマイラクサ（全域）の外、八幡地区の峡谷部ではニレ科のケヤキの葉も食べていた。幼虫は食草の葉を綴じて巣を造る。越冬態は成虫であるが、家屋に入ったものもあり、それらは暖房器具によって室内温度が上がると、厳寒期でも飛び廻ることがある。

中野地区（'65,7,18.2頭） 美和地区（'95,7,12.1♀）

イシガケチョウ（イシガキチョウ）※ *Cyrestis thyodamas kumamotoensis* Matsumura 図版X-C

南方系の蝶で、最近では沿岸部の広島市や浜田市で土着が確認されるようになった。しかし、本州ではまだ珍チョウである。芸北町においても近年、「臥竜山にいた」「雲月山で見た」という情報はあったが今回の調査で確認できた。1992年6月3日、中野地区で1♂1♀がアセビの周りで求愛ダンスを確認した。この外にも筆者（桑原）は、八幡地区で'92年6月に2頭を目撃している。

土橋地区（'92,6,12.1頭）

スミナガシ *Dichorragia nesimachus nesiotus* Fruhstorfer 図版X-D タテハ—20～1

町内の3地区で目撃したが、個体数は少ない。食餌植物は、セセリチョウ科のアオバセセリと同じく標

高によって異なり、低標高の場所ではアワブキ科のアワブキ、高標高では同科のミヤマハハソであった。成虫は樹液や獣糞で吸汁するが、高温期には湿った地上などで吸水する個体を観察した。

中野地区 ('65,8,11.1♂・岡杖正一採, '65,8,24.1♀・沖野完二採, '66,7,27.1♂・藤野博之採, '66,8,2.1♂・谷口武文採) 雄鹿原地区 ('93,8,23.1頭)

コムラサキ *Apatura ilia substituta* Butler 図版 X-F 標本No.タテハ—21~1・2

町内全域に分布するが、個体数は多くない。食餌植物は、ヤナギ科のネコヤナギと、庭に植えられたウンリュウヤナギ、シダレヤナギ、ポプラなどである。幼虫は、樹幹のシワや枝の分岐部などで越冬し、6月中旬頃より羽化出現する。樹液を吸汁したり、湿った地上で吸水しているのをよくみかけるが、これまでのところ吸蜜するものは目撃していない。

中野地区 ('65,7,8.2♂) 美和地区 ('95,7,12.1♂)

ジャノメチョウ科 Satyridae

ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* Butler 図版 XI-A 標本No.ジャー1~1

町内全域に広く分布し、野・山・庭と、いたるところで見られた。成虫は年2回の発生で、第1化は5月下旬頃、第2化は7月中旬頃から羽化出現し、破損した個体は9月上旬にも見られた。

雄鹿原地区 ('62,7,26.計3頭) 美和地区 ('95,9,5.計3頭)

ウラナミジャノメ *Y. motschulskyi nipponica* Murayama 図版 XI-B 標本No.ジャー2~1・2

町内の産地は雄鹿原地区と中野地区に局限される。目撃回数も少ないため不明な点が多いが、初見日が7月6日、終見日が8月5日であることから、年1化と推測される。

雄鹿原地区 A ('62,7,26.3頭) 中野地区 E ('93,7,23.1頭)

ジャノメチョウ *Minois dryas bipunctatus* (Motschulsky) 図版 XI-C 標本No.ジャー3~1

町内全域に分布し、開けた草原などでは個体数が多い。本種は、やや陽性で、盛夏には明るい草原上を波打ちながら飛翔する光景が観察された。訪花植物として確認したのは、ヒヨドリバナと、マツムシソウである。成虫は、年1回の発生で、7月上旬~8月下旬まで、年によっては9月中旬頃まで見られる。食餌植物は、イネ科のススキ。

中野地区 ('61,7,20.3♂) 八幡地区 ('95,9,7.2♀)

ヒメキマダラヒカゲ *Harima callipteris* (Butler) 図版 XI-D 標本No.ジャー4~1

町内全域に広く分布し、ササの生える山や林でやや普通に見られる。幼虫は、チュウゴクザサなどを食べる。5月下旬~9月中旬頃まで町内各地で目撃したがこの幼虫に寄生するハエがいるため、成虫は幼虫に比べると個体数が少ない。'60年代に中野地区で屋内飼育をしたところ、発生のピークは6月上旬と8月下旬の2回であった。越冬態は幼虫。

中野地区 ('64,5,31.4♂1♀) 中野地区・美和地区 ('93,7,23.3頭)

クロヒカゲ *Lethe diana diana* (Butler) 図版 XI-E 標本No.ジャー5~1・2

町内全域に広く分布し、ササの生える薄暗い林に普通に産する。成虫は、6月中旬~9月上旬頃までに2回出現して、樹液やクリの花によく集まる。幼虫は、チュウゴクザサなどを食べ、地上の枯れ葉の間で越冬する。

雄鹿原地区 ('62,7,26.2頭) 八幡地区 ('95,9,7.2♂)

ナミヒカゲ (ヒカゲチョウ) *L. sicelis* (Hewitson) 図版 XII-D 標本No.ジャー7~1・2

県内では平地や低山地に生息するが、場所によってはクロヒカゲよりも多い場合もある。しかし、芸北町では希で、今迄に、次の目撃記録があるだけである。

美和地区（'92,6,18.1♂）この個体は川端の竹林にいた。

オオヒカゲ *Ninguta schrenckii* (Ménétriés) 図版 XI-G 標本No.ジャー8～1

県内分布は限られているが、芸北町においてはほぼ全域に生息し、個体数も少なくない。食餌植物は、湿地に自生するスゲの1種（未同定）で、その葉先から食べ、斜めに伐ったような食跡を残す。越冬態は幼虫。成虫は、7月中旬頃から湿地周縁部のブッシュなどに現われる。そして生き残った雌は9月中旬頃にも見られた。

中野地区（'65,7,18.2♂） 美和地区・八幡地区・中野地区（'95,9,7.計5頭）

ヤマキマダラヒカゲ *Neope nipponica nipponica* Butler 図版 XII-A 標本No.ジャー9～1

1970年にヤマキマダラヒカゲとサトキマダラヒカゲに細分されたが、それまではすべてキマダラヒカゲと呼称されていたため、本町関係の文献もその和名が記録されている。食餌植物については吉田（1993）がクマイザサを報告している。

中野地区（'65,5,8.1頭） 八幡地区（'93,7,29.1頭）

サトキマダラヒカゲ *N. goschkevitschii* (Ménétriés) 図版 XII-B 標本No.ジャー10～1

県内各地に分布する普通種で、芸北町内でも多産する。成虫は、5月中旬～8月上旬頃までに2回のピークが見られた。花に集まった個体は見えないが、樹液にはよく集まる。また、夜間はたき火や灯火にも飛来する。

中野地区（'65,5,16.1頭） 美和地区（'95,9,5.1頭）

ヒメジャノメ *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer 図版 XII-F 標本No.ジャー11～1

町内全域に広く分布し、草原、川土手、林縁、民家の庭先など、いたるところで普通に見られた。食餌植物はイネ科のエノコログサ。成虫は、6月中旬～8月中旬頃までに現われ、樹液を吸汁する個体や、腐ったトマトに集まる個体を目撃した。越冬態は幼虫。

中野地区（'65,6,16.1♂） 八幡地区（'95,9,7.1頭）

ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus arothius* Okada et Torii 図版 XII-E 標本No.ジャー13～1・2

全国的にも減少傾向が強く、中部地方に産する亜種は『レッドデータブック』で希少種とされている。芸北町内では、'60年代には産地も多く、個体数も多かったが、今回の調査で目撃したのは中野地区1カ所のみであった。

中野地区（'60,7,26.3頭） 雄鹿原地区（'62,7,15.7頭） 八幡地区（'62,7,26.多数） 中野地区（'93,7,23.1頭）
ウスイロコマチヨウ※ *Melanitis leda* (Linnaeus) 図版 XII-G

この蝶は南方系のため本土（広島県を含む）での採集例が少ない蝶であったが、1991年8月に、呉市の伊藤 弘氏によって八幡地区で1頭採集された。これは芸北町初記録であるし、山県郡内でも加計、戸河内に次いで3頭目の記録である。

クロコマチヨウ※ *M. phedima oitensis* Matsumura 図版 XII-H 生態図版 IV-E

この蝶も南方系であるため本土での採集例は比較的少ない。芸北町では初記録である。1991年9月22日、林床に降りていた2頭を八幡地区で発見して撮影した。幼虫の食餌植物として他の地方ではオオアブラスキを食べることが知られているが、その食草が現場付近に群生していたので、卵や幼虫を探したが、時期外れであったのか発見に至らなかった。食草や周年経過等は今後解決すべき課題である。

既知種のなかで、今回の調査で未発見のチョウについて

セリチョウ科 Hesperidae

キバネセセリ *Bibasis aquilina chrysaeglia* (Butler) 図版 I - C

芸北町の分布は局地的で、個数数も少ない。1964年の初記録以降今までの記録は次の通りである。食餌植物はウコギ科のハリギリ（センノキ）。雄鹿原地区を除く他の3地区で目撃・採集されている。

中野地区（'64,7,16.1♂）学校の残飯捨場

　　〃（'64,7,22.1♂）　　同上

八幡地区（'65,7,29.1♂）リョウブの花上

中野地区（'76,7,23.2頭.上手新一採）

　　〃（'76,8,2.1頭.　　〃　　）

　　〃（'77,7,28.1頭.　　〃　　）

　　〃（'77,8,7.1頭.　　〃　　）

美和地区（'77,8,24.1♀）学校の男子便所

中野地区（'88,8,7.1頭.上手新一採）

ホシチャバネセセリ *Aeromachus inachus inachus* (Ménétrières) 図版 I - N

八幡地区を除く他の3地区で採集・目撃しているが、生態・習性等は未確認。

雄鹿原地区（'62,8,31.1頭）

中野地区（'65,8,1.1♂）

美和地区（'65,8,9.1頭）

中野地区（'65,8,15.2♂）

中野地区（'66,8,4.3♂）

この記録を見る限り中野地区で確認回数が多く、雄鹿原地区と美和地区は少ない。また八幡地区では確認されなかった。筆者（宮川）は当時中野地区に居住し、休日を利用してバスと徒歩で採集をしたため、遠方やバス便の悪い地区へはあまり行けなかったことが、確認場所と関係しているものと推測される。

シロチョウ科 Dieridae

ツマゲロキチョウ *Eurema laeta bethesba* (Janson) 図版 IV - H

これまでに記録されているのは、八幡地区と中野地区である。

中野地区（'64,4,21.1頭）

中野地区（'65,8,15.2頭）

中野地区（'66,4,28.1♂）

中野地区（'66,9,5.2♂1♀と1卵）

この中野地区Hは手入れ不足で林に戻り、Eは駐車場になっている。食餌植物はマメ科のカワラケツメイで、越冬態は成虫。

エゾスジグロシロチョウ *Pieris napi japonica* Shirôzu 図版 IV - D.

町内唯一の産地が美和地区にあったが、その産地は、現在、残土捨て場となっており、食餌植物であったアブラナ科のスズシロソウも、エゾスジグロシロチョウも今回の調査で確認できなかった。

美和地区 ('65,5,12.1♂)

シジミチョウ科 Lycaenidae

ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri butleri* (Fenton) 図版V-F

本町で採集・目撃されたチョウの中で、その頭数が極めて少ない種の一つである。雄鹿原地区で1972年5月にカシワの木で幼虫2個体採集した。現在は生息環境が激変している。食餌植物はブナ科のカシワ。本県の他の町村では、卵で越冬することが知られている。

カラスシジミ *Strymonidia w-album fentoni* (Butler) 図版VI-I

本種の採集例も極めて少ない。この蝶も希で、これまでに八幡地区だけで記録されている。

八幡地区F ('65,6,30.1♀)

採集したのはウツギの花で吸蜜中の個体である。その後暫くして再調査を実施したが、食餌植物のハルニレ(ニレ科)は伐採され、蝶の姿も見えなくなった。

キマダラルリツバメ *Spindasis takanonis takanonis* (Matsumura) 図版VI-L

県内で唯一八幡から報告されている。その後多くの人々が再調査を試みているが、今のところ朗報を聞かない。『日本版レッドデータブック』では希少種。

八幡地区 ('75,7,27.1♂.清水健一採)

クロシジミ *Niphanda fusca* (Bremer et Grey) 図版VII-C

町内で唯一八幡から報告されている。『日本版レッドデータブック』では希少種。

八幡地区 ('62,7,20.1♀)

タテハチョウ科 Nymphalidae

キタテハ *Polygonia c-aureum* (Linnaeus) 図版IX-F

県内の平地や低山地でやや普通に産するところもあるが、芸北町内では希種である。

中野地区 ('64,6,7.1♂)

ゴマダラチョウ *Hestina japonica* (C. et R. Felder) 図版X-B

芸北町に隣接する金城町や、戸河内町・加計町・豊平町・大朝町では必ずしも希ではないが、本町では次の記録が唯一のものである。

美和地区の標高900m付近 ('80,6,29.1♀.上手新一採)

オオムラサキ *Sasakia charonda* (Hewitson) 図版X-G 生態図版IV-H

『日本版レッドデータブック』では希少種。ゴマダラチョウと同じニレ科のエノキやエゾエノキを食べるが本町では食草は未確認。前記隣接の5町では成虫も、幼虫も採集されているが、本町の場合は成虫のみの記録で、中野地区に限られている。

'60,7,26.1♂ 松の幼木に静止していた

'65,7,14.1♂ 飛翔中

'65,7,30.1♂ 谷口武文採, クヌギの樹液で吸汁中

'65,8,4.1♀ 谷口武文採, 同上

このように成虫ばかりで、幼虫も食樹も発見されていないので土着しているか否か疑問である。

ジャノメチョウ科 Satyridae

クロヒカゲモドキ *Lethe marginalis* (Motschulsky) 図版 XI - F

全県的にも局地的な分布を示す蝶であるが、芸北町の記録も次の一例のみである。しかし、似た環境は他にもあるので、今後の精査が待たれる。

雄鹿原地区 ('61,7,27.1♀)

コジャノメ *Mycalesis francisca perdiccas* Hewitson 図版 XII - C

同属のヒメジャノメに酷似しているが、芸北町では、前種は普通種で、本種は希少なチョウである。

八幡地区 ('67,6,3.1♀)

この記録が唯一のもので、今後精査してみる必要がある。

参 考 文 献

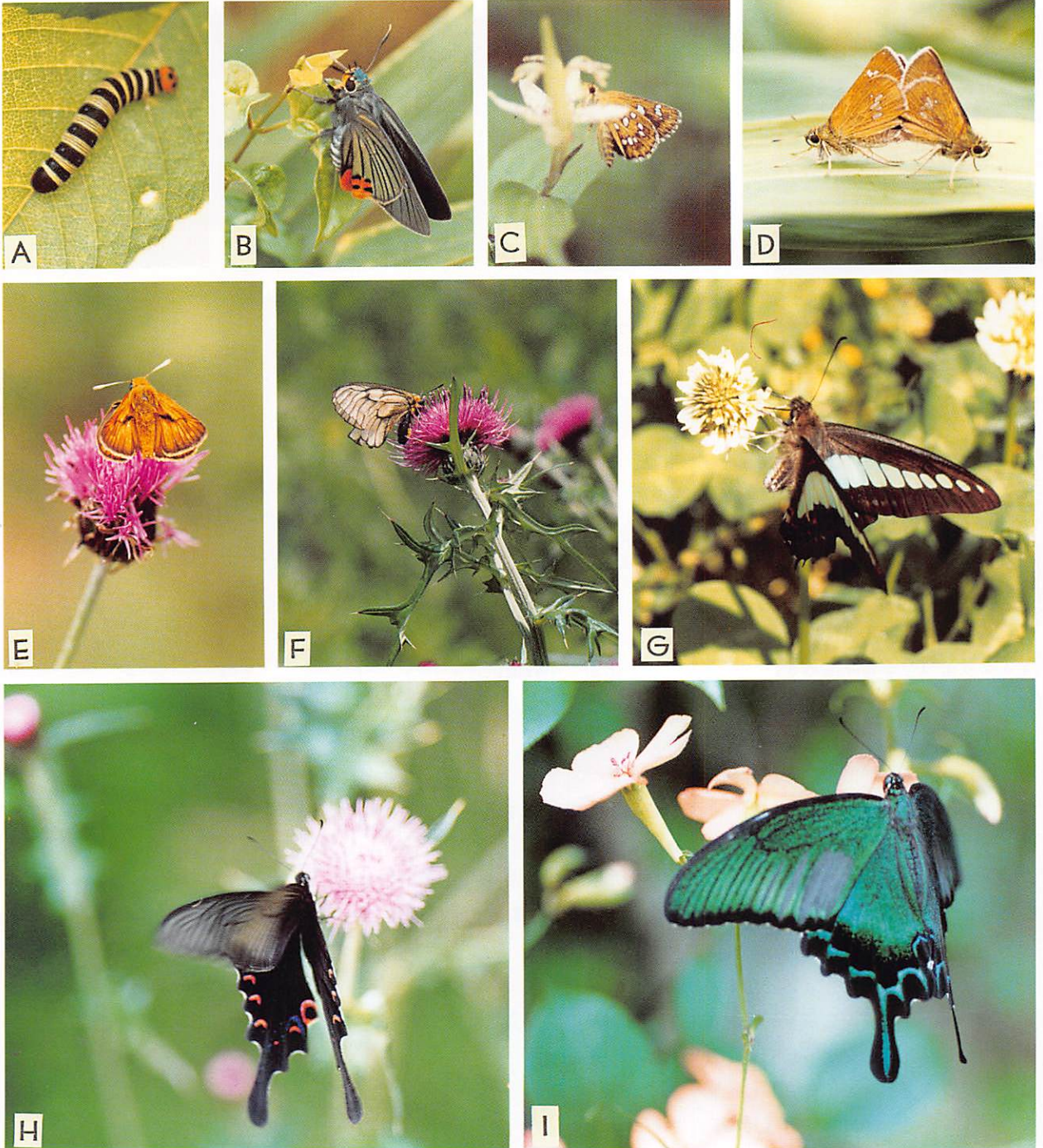
- 朝比奈正二郎・他 1988 動植物分布調査報告書(チョウ類) 環境庁
上手新一 1988 高標高のゴマダラチョウ 広島虫の会会報 74:57
—— 1988 キバネセセリの一産地 広島虫の会会報 74:64
桑原良敏 1973 シジミチョウ類の分布資料 広島虫の会会報 95:91
後藤孝彦・他 1986 臥竜山麓公園(仮称)地域の環境調査報告書 広島県
白水 隆 1965 原色図鑑日本の蝶 265pp. 北隆館
原田樹雄 1994 広島県産のチョウ類の分布記録 比婆科学 70:17~53
広島虫の会 1982 広島県のチョウ 208pp. 中国新聞社
藤岡知夫 1975 日本産蝶類大図鑑 312pp. 講談社
吉田公彦 1993 ヤマキマダラヒカゲの幼虫を採集 広島虫の会会報 46:16
渡部泰明 1970 臥竜山でウラキンシジミを採集 広島虫の会会報 32:4

1995年9月9日受付;1995年12月20日受理

図 版 1

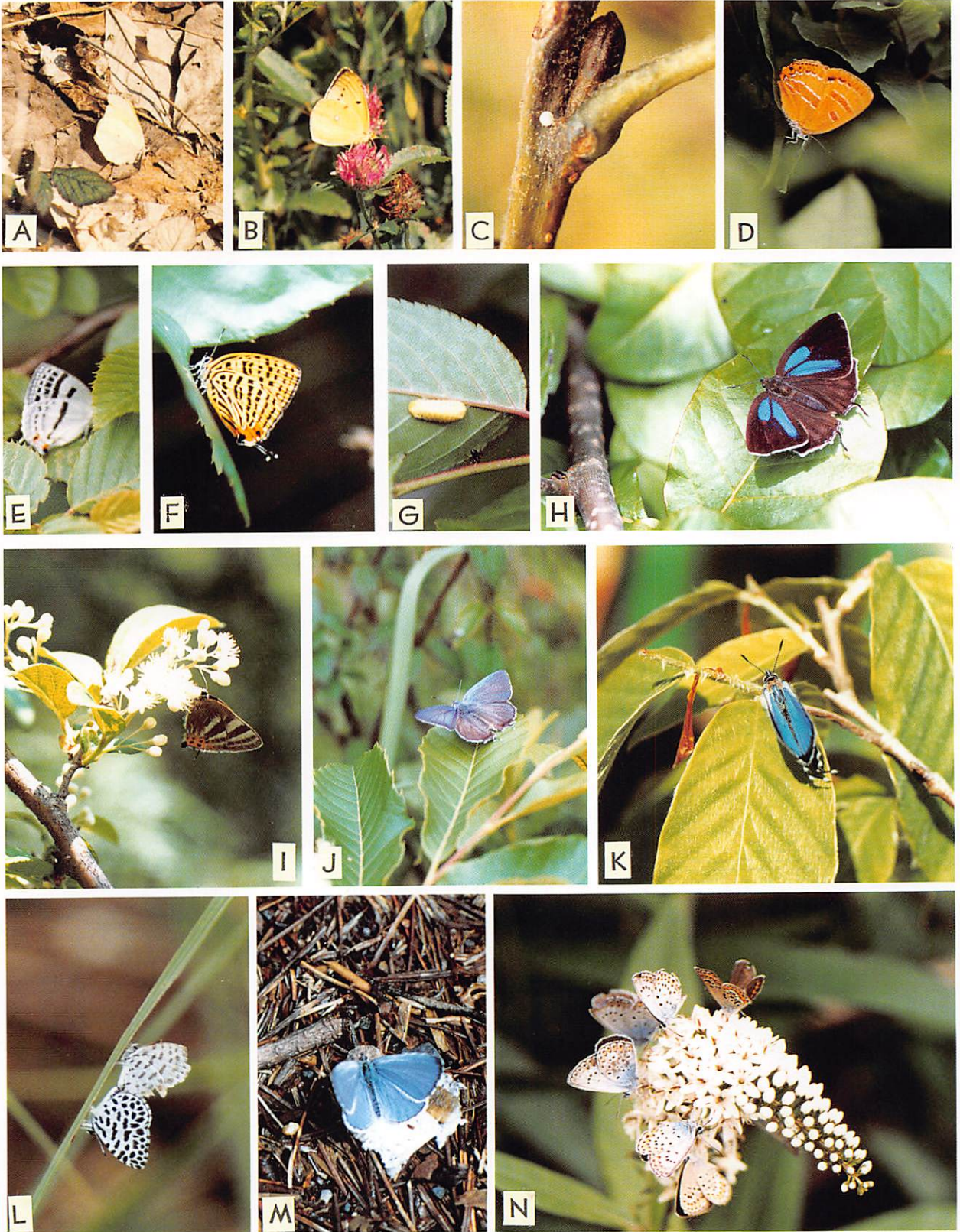
生態図版 I

- A:アオバセセリ幼虫 1989年6月27日撮影 雄鹿原地区
B:アオバセセリ 1989年9月17日撮影 雄鹿原地区
C:ホソバセセリ 1988年7月29日撮影 中野地区
D:オオチャバネセセリの交尾 1991年7月9日撮影 中野地区
E:コキマダラセセリ♂ 1991年7月3日撮影 中野地区
F:ウスバシロチョウ♀ 1988年6月5日撮影 美和地区
G:アオスジアゲハ 1991年7月25日撮影 雄鹿原地区
H:オナガアゲハ♂ 1994年5月16日撮影 雄鹿原地区
I:カラスアゲハ♂ 1991年7月19日撮影 美和地区



生態図版Ⅱ

- A：スジボソヤマキチョウ♂ 1990年9月10日撮影 中野地区
- B：モンキチョウ♂ 1988年8月2日撮影 八幡地区
- C：ミドリシジミの卵 1991年9月11日撮影 八幡地区
- D：アカシジミ 1992年7月27日撮影 中野地区
- E：ミズイロオナガシジミ 1991年7月11日撮影 雄鹿原地区
- F：ウラナミアカシジミ 1992年7月6日撮影 美和地区
- G：メスアカミドリシジミ幼虫飼育羽化 1992年5月9日撮影 美和地区
- H：ヒサマツミドリシジミ♀飼育羽化 1992年5月28日撮影 芸北町域
- I：トラフシジミ春型 1992年6月3日撮影 雄鹿原地区
- J：オオミドリシジミ♂ 1992年7月13日撮影 中野地区
- K：フジミドリシジミ♂飼育羽化 1989年5月14日撮影 芸北町域
- L：ゴイシジミの交尾 1993年7月16日撮影 中野地区
- M：ルリシジミ 1992年5月9日撮影 美和地区
- N：ヒメシジミ 1991年7月3日撮影 中野地区



生態図版Ⅲ

- A : アサギマダラ 1992年7月31日撮影 雄鹿原地区
- B : オオウラギンスジヒョウモンの交尾 1992年8月4日撮影 雄鹿原地区
- C : ウラギンヒョウモン 1991年7月8日撮影 中野地区
- D : ヒョウモンモドキ(大)とヒメシジミ(小)の吸蜜 1992年撮影 芸北町域
- E : 吸蜜するヒョウモンモドキ♂♀ 1991年撮影 芸北町域
- F : 食草葉裏のヒョウモンモドキの卵塊 1993年撮影 芸北町域
- G : サカハチチョウ春型 1992年5月9日撮影 美和地区
- H : ツマグロヒョウモン♂ 1992年7月6日撮影 中野地区
- I : アカタテハ 1991年10月2日撮影 美和地区
- J : アカタテハの幼虫 1991年9月14日撮影 八幡地区
- K : ルリタテハの幼虫 1991年7月24日撮影 美和地区
- L : ルリタテハ 1989年7月9日撮影 雄鹿原地区

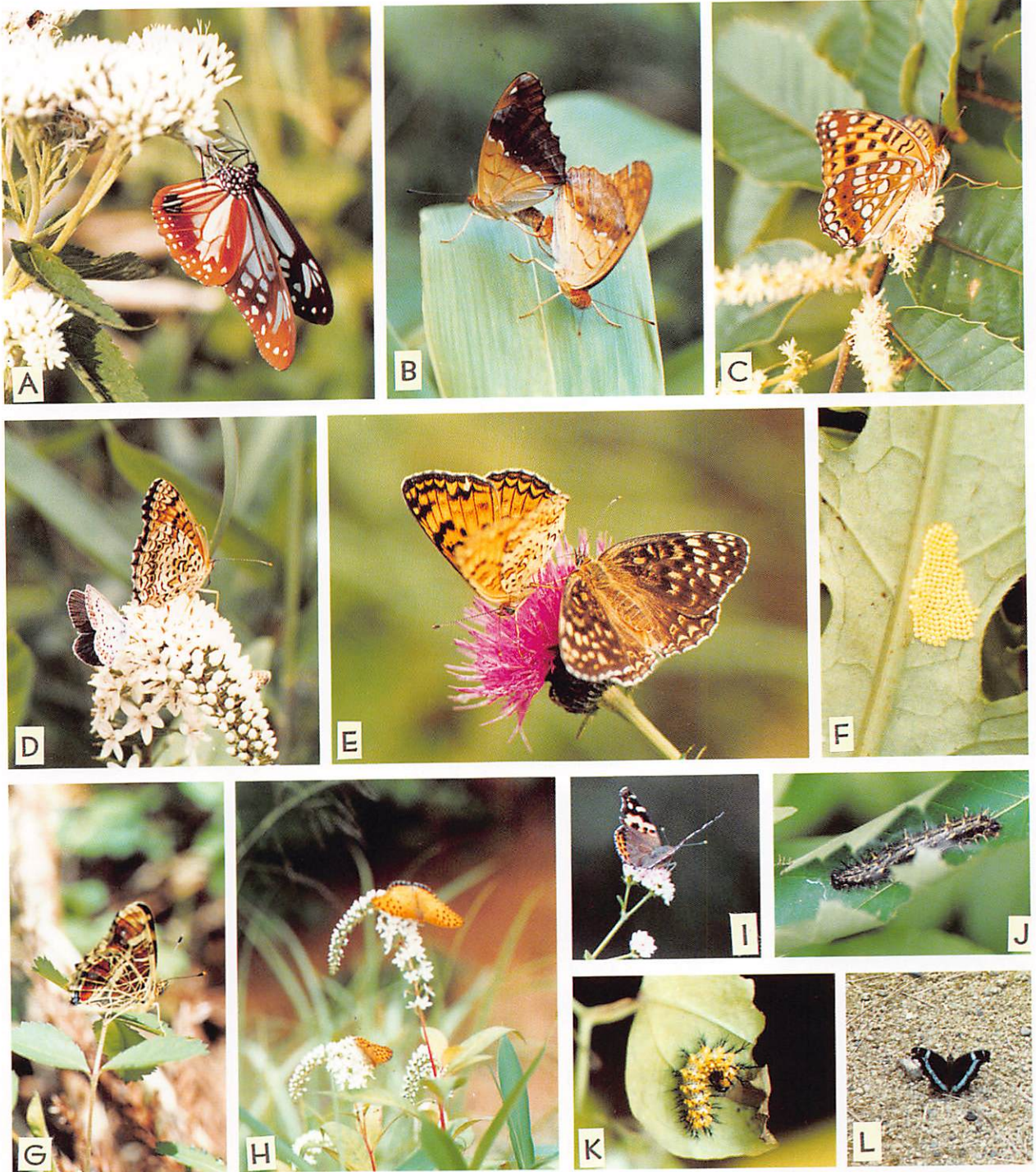


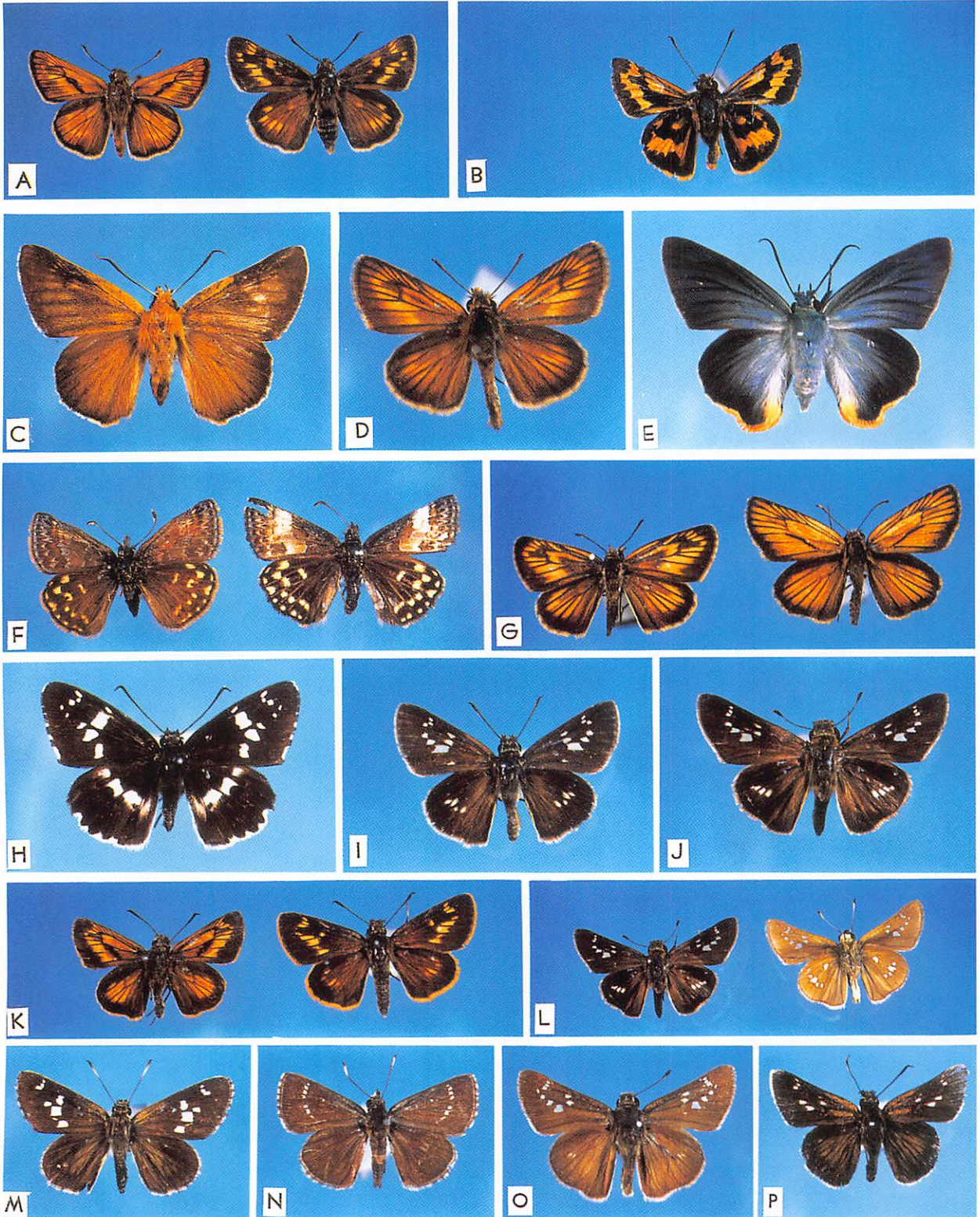
図 版 4

生態図版Ⅳ

- A：イシガケチョウ（イシガキチョウ）（町外）
- B：スミナガシ 1993年8月23日撮影 雄鹿原地区
- C：ジャノメチョウの交尾 1991年8月4日撮影 中野地区
- D：オオヒカゲ（上と下）とヤマキマダラヒカゲ（中） 1993年7月28日撮影 八幡地区
- E：クロコノマチョウ 1991年9月22日撮影 八幡地区
- F：ヤマトシジミ（町外）
- G：ウスイロオナガシジミ飼育羽化 1991年6月17日
- H：オオムラサキ♂（町外）
- I：ヒョウモンモドキなどが産する湿地 1991年7月3日撮影 芸北町域

图版 4

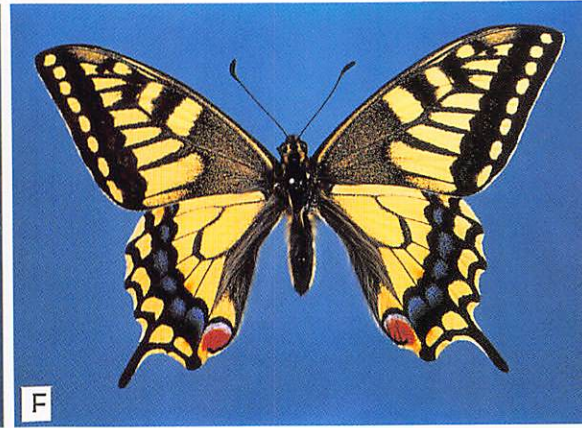
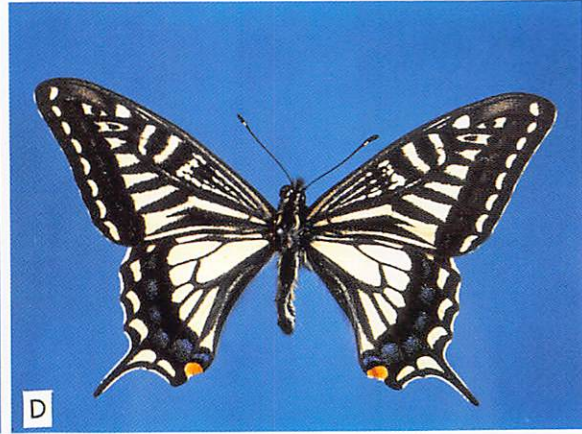
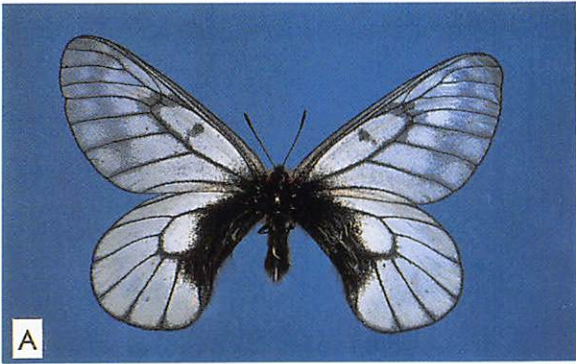




図版 6

図版Ⅱ アゲハチョウ科(1)

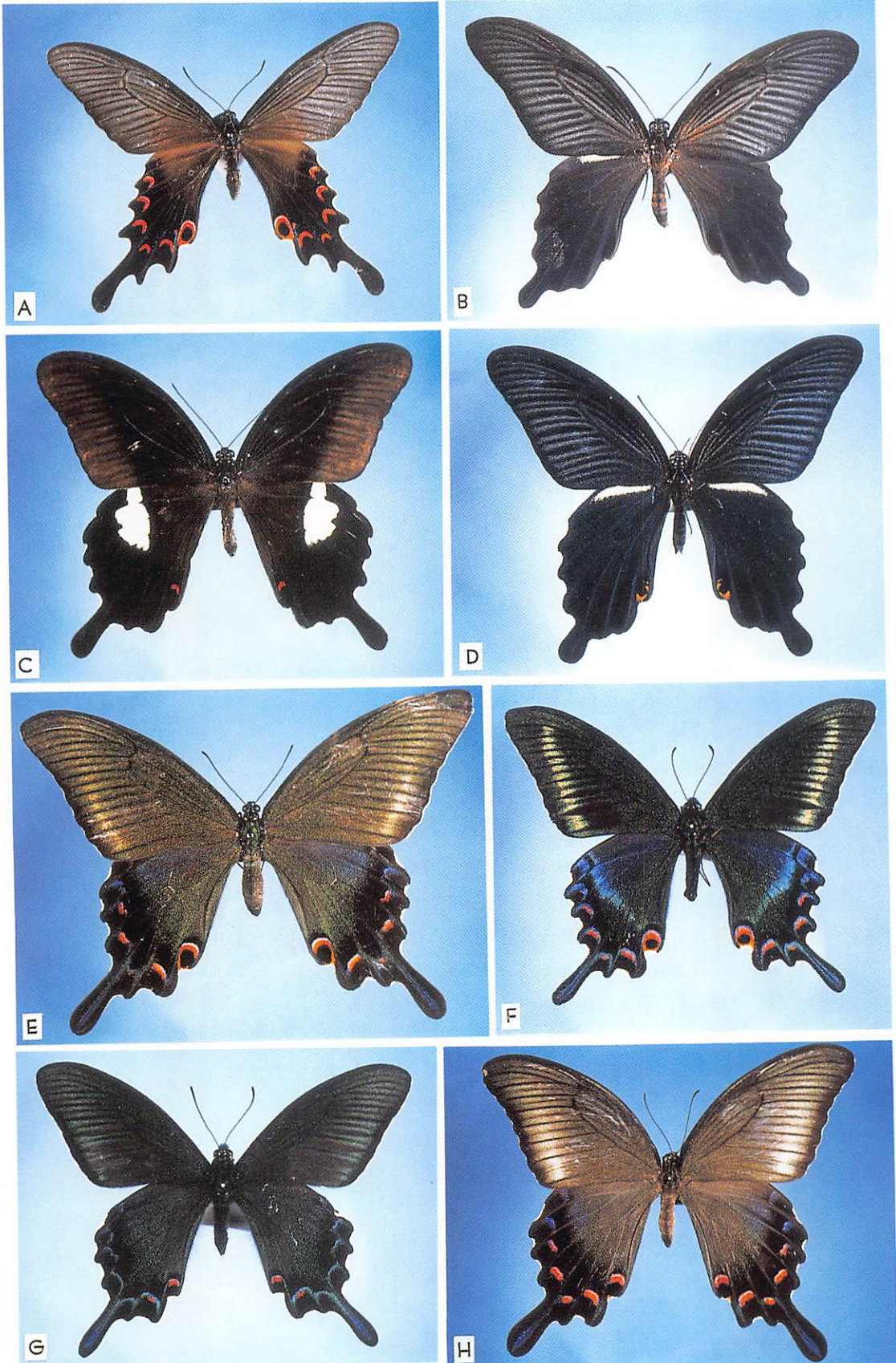
- A : ウスバシロチョウ♂ 1991年5月20日採集 中野地区 アゲハ1~1
B : ♀ 1964年5月21日採集 中野地区 アゲハ1~2
C : ナミアゲハ(アゲハ・アゲハチョウ)♂ 1965年7月24日採集 中野地区 アゲハ4~1
D : ♀ 1966年5月8日採集 中野地区 アゲハ4~2
E : キアゲハ♀ 1965年10月26日採集 中野地区 アゲハ3~2
F : ♂ 1968年5月18日採集 中野地区 アゲハ3~1
G : アオスジアゲハ 1964年6月7日採集 八幡地区 アゲハ2
H : オナガアゲハ♂ 1965年6月4日採集 中野地区 アゲハ5~1



図版 7

図版Ⅲ アゲハチョウ科(2)

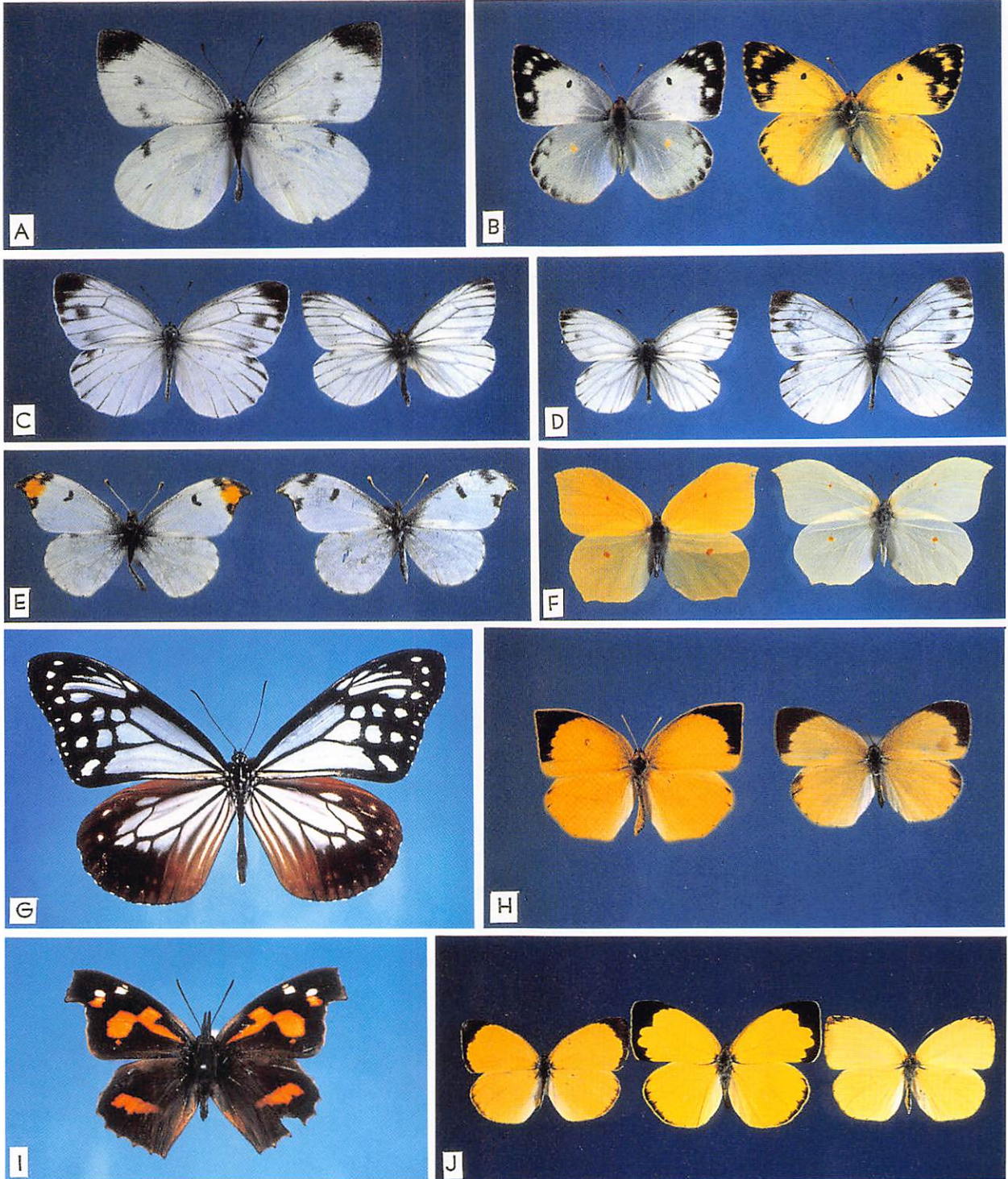
- A : オナガアゲハ♀ 1965年6月5日採集 中野地区 アゲハ5～2
B : クロアゲハ♂ 1965年6月2日採集 中野地区 アゲハ6～1
C : モンキアゲハ 1964年8月10日採集 中野地区 アゲハ7
D : クロアゲハ♂ 1993年8月23日採集 雄鹿原地区 アゲハ6～2
E : ミヤマカラスアゲハ夏型♀ 1965年7月14日採集 中野地区 アゲハ9～2
F : ♀ 春型♂ 1991年5月23日採集 雄鹿原地区 アゲハ9～1
G : カラスアゲハ春型♂ 1991年5月23日採集 雄鹿原地区 アゲハ8～1
H : ♀ 夏型♀ 1966年7月28日採集 中野地区 アゲハ8～2



図版 8

図版Ⅳ シロチョウ科・マダラチョウ科(G)・テングチョウ科(I)

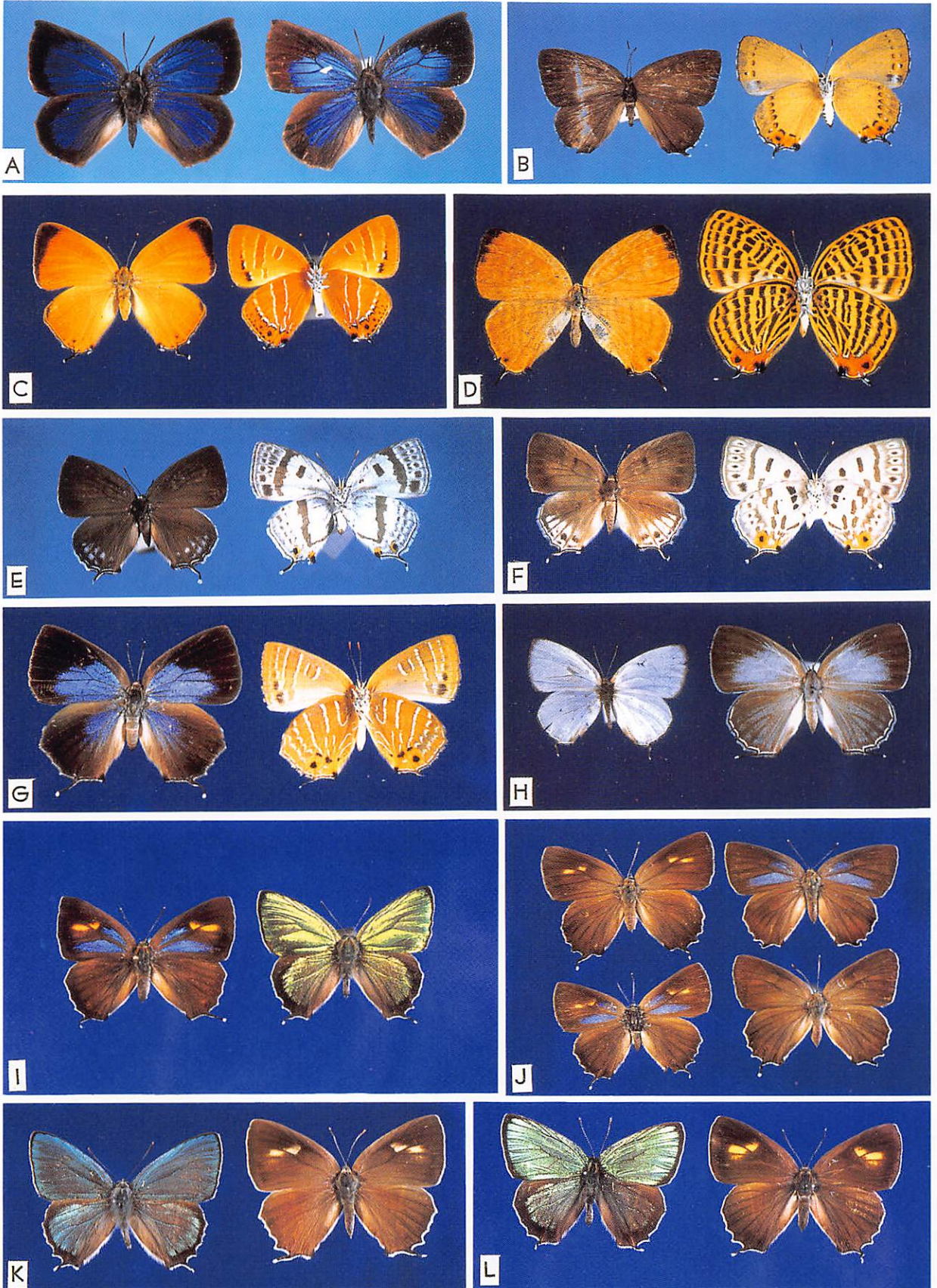
- A : モンシロチョウ 1991年6月26日採集 美和地区 シロ1~1
- B : モンキチョウ♀(左) 1991年6月26日採集 美和地区 シロ4~1
♂(右) ♀ 美和地区 シロ4~2
- C : スジグロシロチョウ夏型(左) 1967年8月4日採集 中野地区 シロ7~2
春型(右) 1967年4月27日採集 中野地区 シロ7~1
- D : エゾスジグロシロチョウ春型(左) 1965年5月12日採集 美和地区 シロ8~1
夏型(右) 1966年6月24日採集 美和地区 シロ8~2
- E : ツマキチョウ♂(左) 1965年5月2日採集 中野地区 シロ5~1
♀(右) 1966年5月5日採集 中野地区 シロ5~2
- F : スジボソヤマキチョウ♂(左) 1965年8月10日採集 中野地区 シロ3~1
♀(右) 1967年9月15日採集 中野地区 シロ3~2
- G : アサギマダラ 1990年9月11日採集 雄鹿原地区 マダラ1~1
- H : ツマグロキチョウ♂(左) 1967年8月4日採集 中野地区 シロ2~1
♀(右) 1967年9月15日採集 中野地区 シロ2~2
- I : テングチョウ 1991年6月8日採集 美和地区 テング1~1
- J : キチョウ♂(左) 1967年5月21日採集 中野地区 シロ1~1
♂(中) 1991年6月29日採集 中野地区 シロ1~2
♀(右) 1967年9月15日採集 中野地区 シロ1~3



図版 9

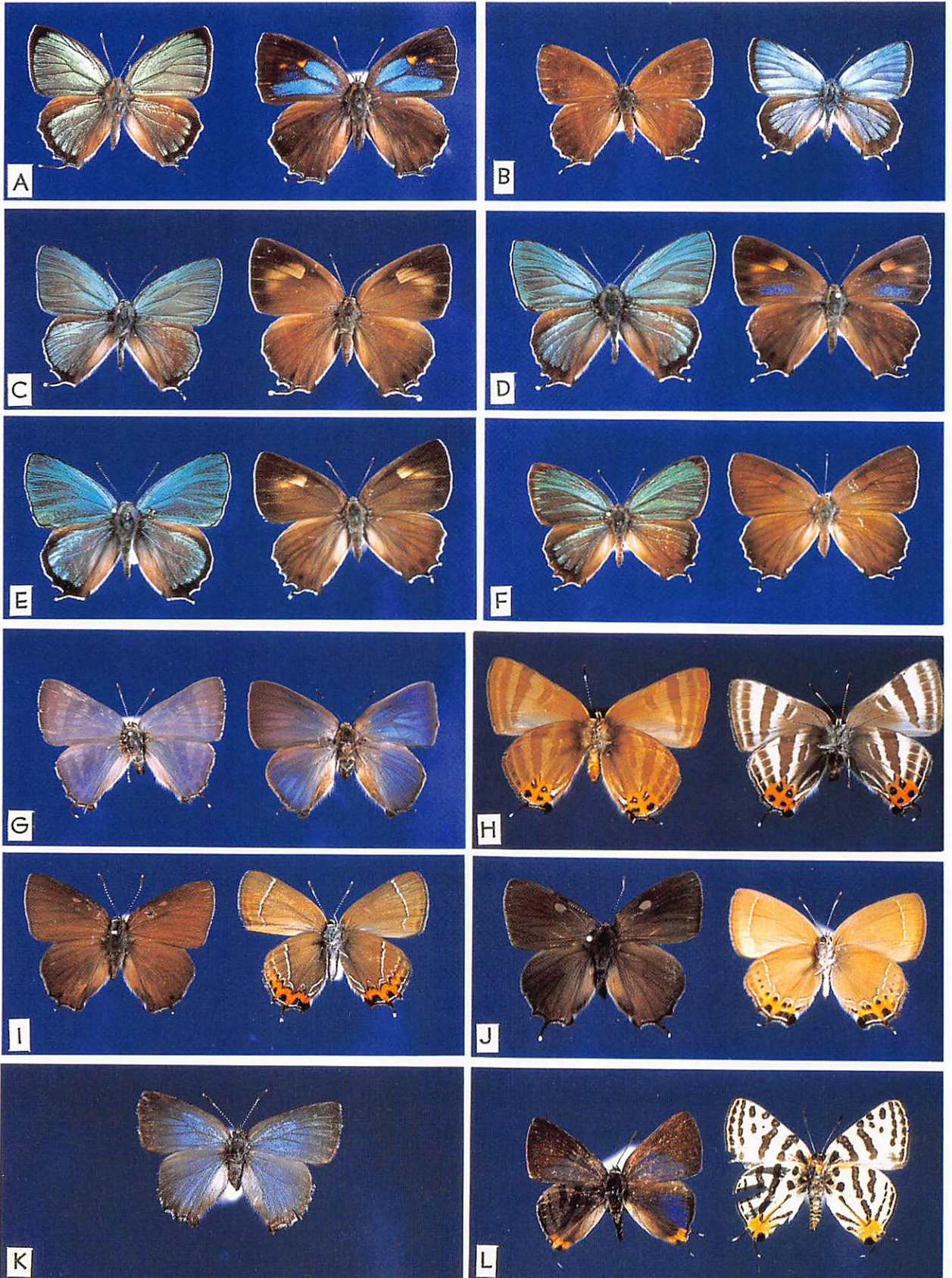
図版V シジミチョウ科(1)

- A：ムラサキシジミ♂(左) 1967年8月24日採集 中野地区 シジミ1～1
 ♀(右) ♪ 中野地区 シジミ1～2
- B：ウラキンシジミ表(左) 1991年7月20日採集 雄鹿原地区 シジミ2～1
 裏(右) 1980年6月4日飼育羽化 八幡地区 シジミ2～2
- C：アカシジミ表(左) 1978年6月11日飼育羽化 中野地区 シジミ3
 裏(右) (町外)
- D：ウラナミアカシジミ表(左) 1972年7月20日採集 雄鹿原地区 シジミ4～1
 裏(右) 1961年7月28日採集 雄鹿原地区 シジミ4～2
- E：ミズイロオナガシジミ表(左) 1991年7月3日飼育羽化 中野地区 シジミ5～1
 裏(右) 1977年7月11日採集 雄鹿原地区 シジミ5～2
- F：ウスイロオナガシジミ表(左) 1972年6月24日飼育羽化 雄鹿原地区 シジミ6
 裏(右) (町外)
- G：ダイセンシジミ(ウラムスジシジミ)表(左) 1966年7月22日採集 中野地区 シジミ7～1
 裏(右) 1992年7月14日採集 八幡地区 シジミ7～2
- H：ウラクロシジミ♂(左) 1966年7月4日採集 中野地区 シジミ8～1
 ♀(右) 1967年7月6日採集 中野地区 シジミ8～2
- I：アイノミドリシジミ♀(左) 1970年6月11日飼育羽化 中野地区 シジミ11～2
 ♂(右) 1969年6月19日採集 中野地区 シジミ11～1
- J：ミドリシジミ♀4型上左(A型) 1966年7月22日採集 中野地区 シジミ9～3
 上右(B型) ♪ 採集 中野地区 シジミ9～4
 下左(A B型) 1963年6月27日採集 美和地区 シジミ9～5
 下右(O型) 1966年7月22日採集 中野地区 シジミ9～2
- K：ハヤシミドリシジミ♂(左) 1978年6月23日飼育羽化 美和地区 シジミ16～1
 ♀(右) 1961年7月28日採集 雄鹿原地区 シジミ16～2
- L：メスアカミドリシジミ♂(左) 1979年5月31日飼育羽化 美和地区 シジミ10～1
 ♀(右) 1975年5月9日飼育羽化 美和地区 シジミ10～2



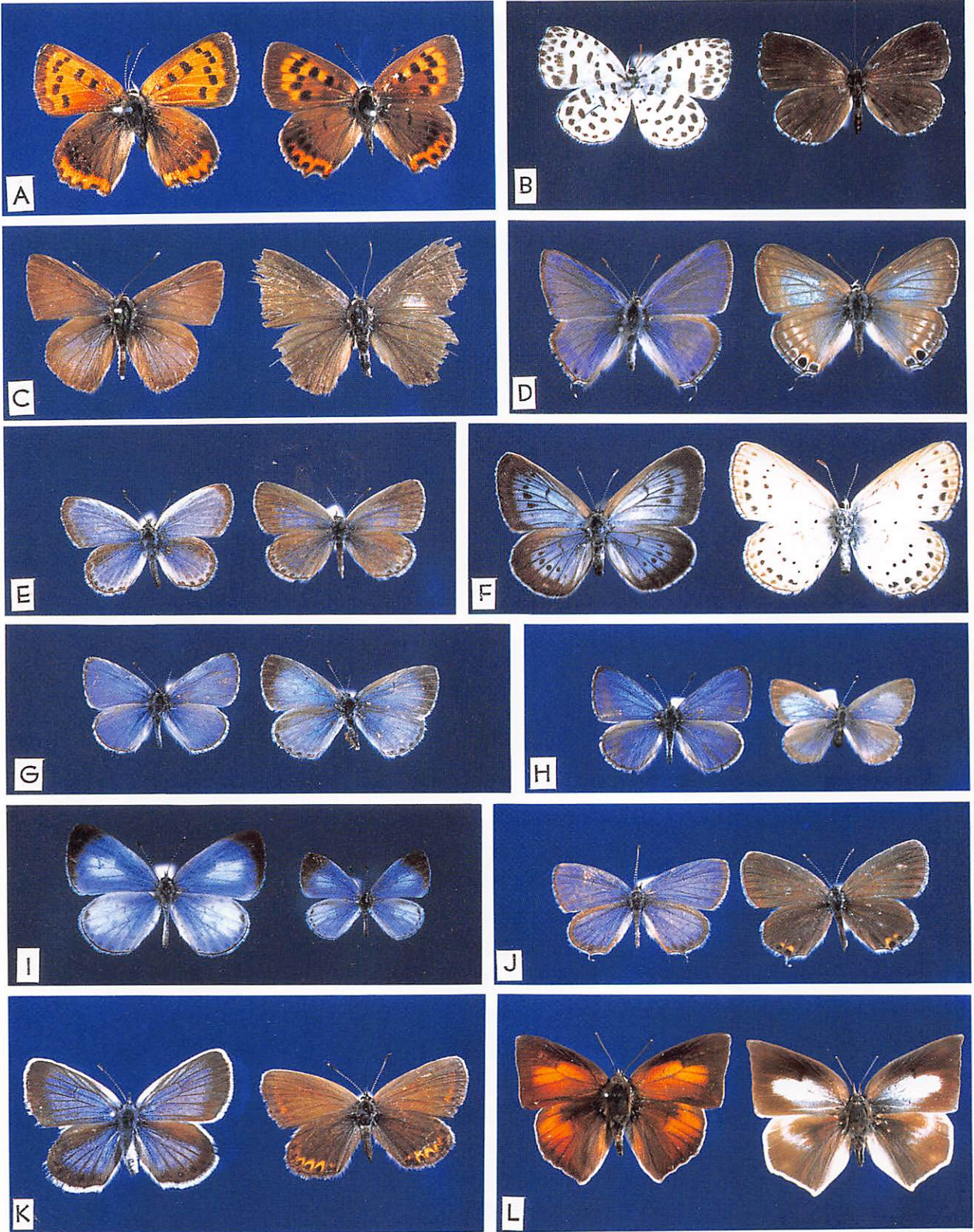
図版Ⅵ シジミチョウ科(2)

- A : ヒサマツミドリシジミ♂(左) 芸北町
♀(右) 1992年5月28日飼育羽化 芸北町 シジミ12~2
- B : フジミドリシジミ♂(右) 1968年6月12日飼育羽化 中野地区 シジミ3~1
♀(左) ♪ 飼育羽化 中野地区 シジミ13~2
- C : オオミドリシジミ♂(左) 1967年6月19日採集 中野地区 シジミ14~1
♀(右) 1972年5月29日飼育羽化 中野地区 シジミ14~2
- D : ジョウザンミドリシジミ♂(左) 1967年6月10日飼育羽化 中野地区 シジミ17~1
♀(右) 1969年6月16日飼育羽化 中野地区 シジミ17~2
- E : エゾミドリシジミ♂(左) 1969年6月11日飼育羽化 雄鹿原地区 シジミ15~1
♀(右) 1969年6月22日飼育羽化 雄鹿原地区 シジミ15~2
- F : ミドリシジミ♂(左) 1966年7月11日採集 中野地区 シジミ9~1
♀(右) 1966年7月22日採集 中野地区 シジミ9~2
- G : トラフシジミ表春型(左) 1966年5月26日採集 美和地区 シジミ18~1
夏型(右) 1965年7月19日採集 中野地区 シジミ18~2
- H : トラフシジミ裏夏型(左) 1965年7月19日採集 中野地区 シジミ18~2
春型(右) 1966年5月26日採集 美和地区 シジミ18~1
- I : カラスシジミ表(左) 1965年6月30日採集 八幡地区 シジミ19
裏(右) 鹿児島県産
- J : ミヤマカラスシジミ表(左) 1966年7月21日採集 中野地区 シジミ20~1
裏(右) ♪ 中野地区 シジミ20~2
- K : コツバメ 1965年5月8日採集 中野地区 シジミ21~1
- L : キマダラルリツバメ表(左) 鳥取県産
裏(右) ♪



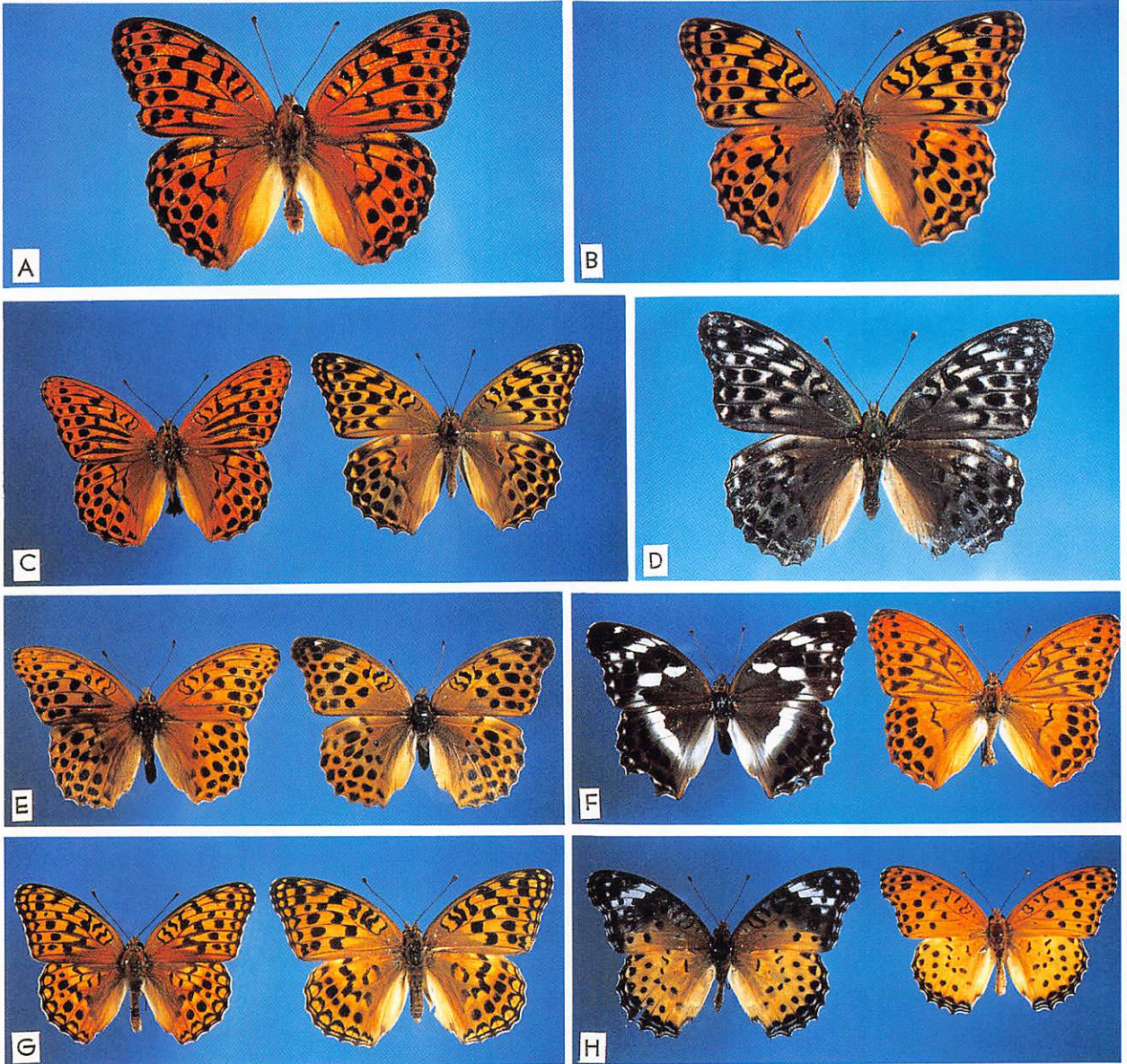
図版Ⅶ シジミチョウ科(3)

- A : ベニシジミ春型(左) 1965年4月19日採集 中野地区 シジミ23~1
 夏型(右) 1966年9月10日採集 中野地区 シジミ23~2
- B : ゴイシジミ裏(左) 1966年9月15日採集 中野地区 シジミ24~2
 表(右) ♪ 中野地区 シジミ24~1
- C : クロシジミ♂(左) (町外)
 ♀(右) ♪
- D : ウラナミシジミ♂(左) 1966年9月15日採集 中野地区 シジミ26~1
 ♀(右) 1966年8月14日採集 中野地区 シジミ26~2
- E : ヤマトシジミ♂(左) (町外)
 ♀(右) ♪
- F : ゴマシジミ表(左) 1980年8月2日採集 雄鹿原地区 シジミ28~1
 裏(右) ♪ 雄鹿原地区 シジミ28~2
- G : ルリシジミ♂(左) 1967年4月21日採集 中野地区 シジミ29~1
 ♀(右) 1967年4月18日採集 中野地区 シジミ29~2
- H : スギタニルリシジミ♂(左) 1965年4月29日採集 美和地区 シジミ30~1
 ♀(右) ♪ 美和地区 シジミ30~2
- I : サツマシジミ普通サイズ(左) 1991年6月29日採集 中野地区 シジミ31~1
 ミニサイズ(右) 1980年8月2日採集 八幡地区 シジミ31~2
- J : ツバメシジミ♂(左) 1966年8月12日採集 中野地区 シジミ32~1
 ♀(右) 1966年9月15日採集 中野地区 シジミ32~2
- K : ヒメシジミ♂(左) 1976年6月27日採集 美和地区 シジミ33~1
 ♀(右) 1976年7月14日採集 美和地区 シジミ33~2
- L : ウラギンシジミ♂(左) 1966年9月10日採集 中野地区 シジミ34~1
 ♀(右) ♪ 中野地区 シジミ34~2



図版Ⅳ タテハチヨウ科(1)

- A : オオウラギンスジヒョウモン♂ 1971年7月21日採集 八幡地区 タテハ2～1
 B : ♀ 1965年7月9日採集 中野地区 タテハ2～2
 C : ミドリヒョウモン♂(左) 1964年6月20日採集 中野地区 タテハ3～1
 ♀(右) 1965年7月8日採集 美和地区 タテハ3～2
 D : 黒化型♀ 1966年6月26日採集 雄鹿原地区 タテハ3～3
 E : クモガタヒョウモン♂(左) 1966年6月25日採集 中野地区 タテハ4～1
 ♀(右) 1967年7月6日採集 中野地区 タテハ4～2
 F : メスグロヒョウモン♀(左) 1967年6月26日採集 雄鹿原地区 タテハ5～2
 ♂(右) 1965年7月9日採集 中野地区 タテハ5～1
 G : ウラギンヒョウモン♂(左) 1966年6月27日採集 中野地区 タテハ6～1
 ♀(右) 1965年7月6日採集 中野地区 タテハ6～2
 H : ツマグロヒョウモン♀(左) 1965年9月21日採集 中野地区 タテハ7～2
 ♂(右) 1965年7月14日採集 中野地区 タテハ7～1



図版 13

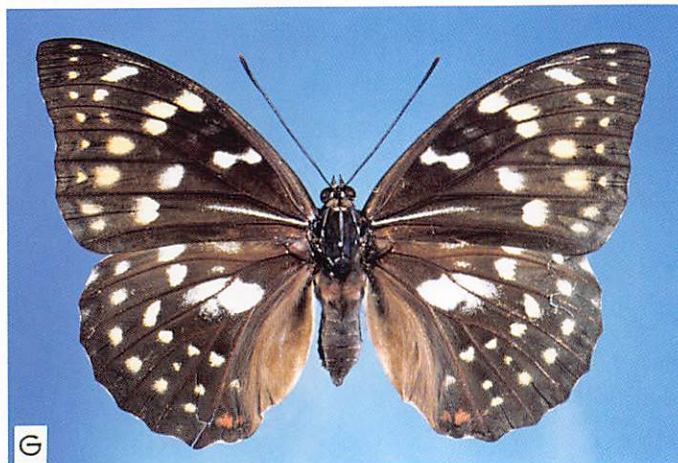
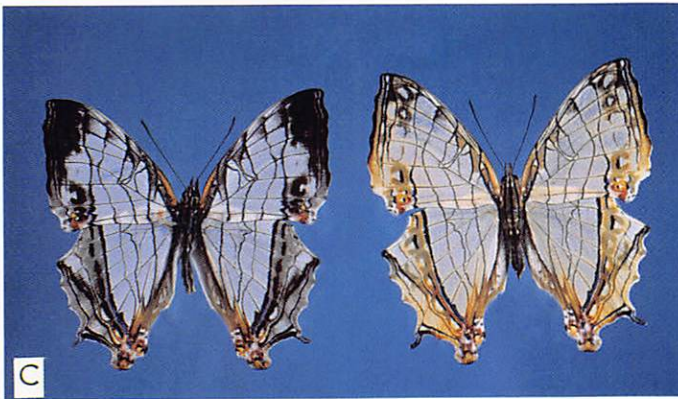
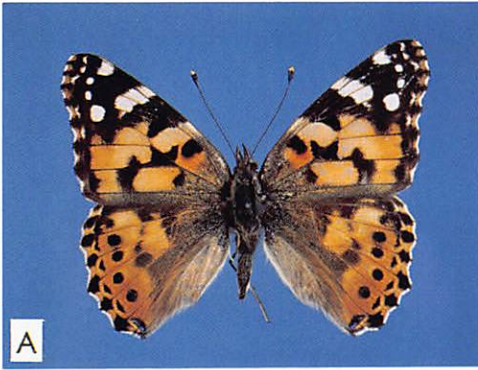
図版IX タテハチョウ科(2)

- A : イチモンジチョウ 1961年6月18日採集 八幡地区 タテハ8~1
B : アサマイチモンジ 1979年7月22日採集 八幡地区 タテハ9~1
C : コミスジ 1967年8月9日採集 中野地区 タテハ10~1
D : ヒョウモンモドキ♂(左) 1961年7月10日採集 芸北町域 タテハ12~1
♀(右) 1967年7月4日採集 ♀ タテハ12~2
E : サカハチチョウ春型(左) 1966年5月8日採集 中野地区 タテハ13~1
夏型(右) 1966年7月29日採集 中野地区 タテハ13~2
F : キタテハ 1964年6月7日採集 中野地区 タテハ14~1
G : ルリタテハ 1965年6月24日採集 中野地区 タテハ15~1
H : ヒオドシチョウ 1979年8月13日採集 美和地区 タテハ16~1



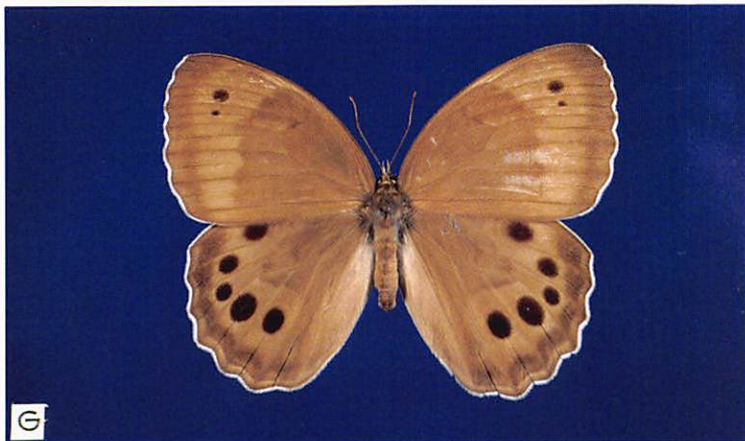
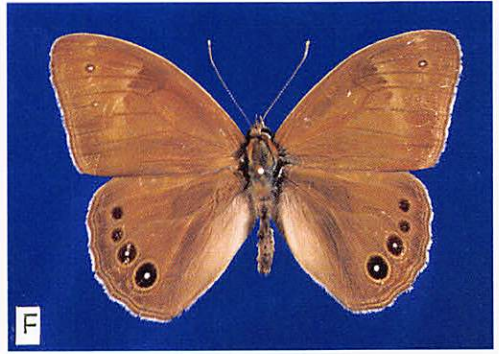
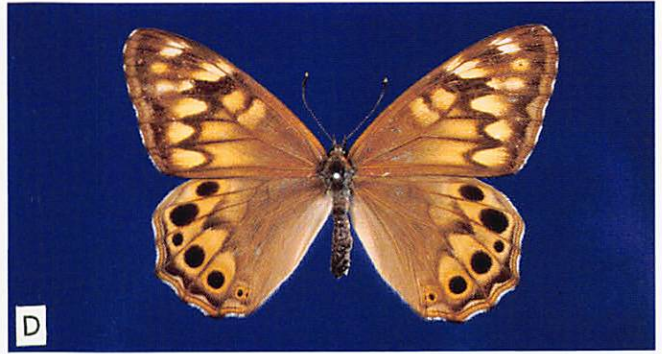
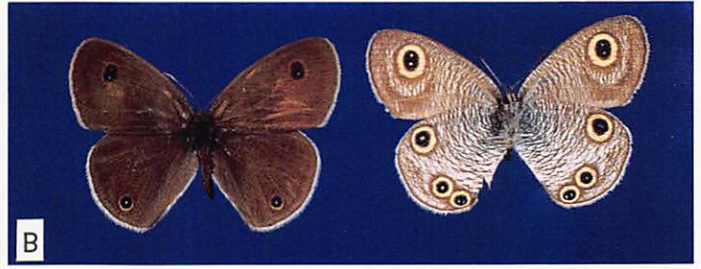
図版X タテハチヨウ科(3)

- A : ヒメアカタテハ 1965年6月7日採集 中野地区 タテハ17~1
- B : ゴマダラチヨウ春型(左) (町外)
夏型(右) ♀
- C : イシガケチヨウ (イシガキチヨウ) ♂(左) (町外)
♀(右) ♀
- D : スミナガシ 1965年8月11日採集 中野地区 タテハ20~1
- E : アカタテハ 1965年9月4日採集 中野地区 タテハ18~1
- F : コムラサキ♂(左) 1966年8月10日採集 中野地区 タテハ21~1
♀(右) ♀ 中野地区 タテハ21~2
- G : オオムラサキ♀ 飼育品 (町外)
- H : ♀ ♂ 飼育品 (町外)



図版 XI ジャノメチョウ科(1)

- A : ヒメウラナミジャノメ 1967年8月10日採集 中野地区 ジャ1~1
- B : ウラナミジャノメ表(左) 1967年8月10日採集 中野地区 ジャ2~1
裏(右) 1967年7月4日採集 中野地区 ジャ2~2
- C : ジャメチョウ 1967年7月29日採集 中野地区 ジャ3~1
- D : ヒメキマダラヒカゲ 1976年8月6日採集 雄鹿原地区 ジャ4~1
- E : クロヒカゲ表(左) 1965年9月4日採集 中野地区 ジャ5~1
裏(右) 1965年8月22日採集 中野地区 ジャ5~2
- F : クロヒカゲモドキ 1961年7月27日採集 雄鹿原地区 ジャ6~1
- G : オオヒカゲ 1967年8月16日採集 中野地区 ジャ8~1



図版 XII ジャノメチョウ科(2)

- A : ヤマキマダラヒカゲ 1965年5月8日採集 中野地区 ジャ9~1
B : サトキマダラヒカゲ 1991年8月4日採集 美和地区 ジャ10~1
C : コジャノメ 1967年6月3日採集 八幡地区 ジャ12~1
D : ナミヒカゲ(ヒカゲチョウ)表(左) ジャ7~1
裏(右) ジャ7~2
E : ヒメヒカゲ表(左) 1978年7月5日採集 中野地区 ジャ13~1
裏(右) ♀ 中野地区 ジャ13~2
F : ヒメジャノメ 1967年6月11日採集 中野地区 ジャ11~1
G : ウスイロコノマチョウ (宮崎県産)
H : クロコノマチョウ 飼育品 (宮崎県産)

